

STRIKE  
WHILE THE  
IRON IS  
HOT.



徳島大学



## アクティブ・ラーニング入門

専門分野の体験



ラーニングスキル



学修の振り返り



スマートフォン  
での閲覧はこちら

徳島大学  
SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～

## はじめに：新入生のみなさんへ

徳島大学教養教育院 院長 齊藤 隆仁

新入生のみなさんは、大学に入学するまで、どのような学習を行ってきましたか。例えば、高校での授業では、教壇に教師が立ち、みなさんは板書やスライドを見ながら、「問われた質問に対して正しい答えを探す学習」を行うことが多かったのではないのでしょうか。

グローバル化、少子高齢化、情報化、産業構造の流動化など、社会の急激な変化の中、現代は未来の予測が困難な時代といわれています。このような時代を背景に、生涯学び続け、主体的に考え、答えのない問題に挑み、それを解決していく能力が何よりも求められています。

徳島大学では、「専門知識と技術を身につけ、自律して人類の諸問題の解決に立ち向かう、進取の気風を身につけた人材の育成」を教育の理念・目標として掲げています。そこで、徳島大学の新入生のみなさんが、入学直後に従来の受動的学習者からアクティブ・ラーナーへ変貌する第一歩を踏み出すことを目的として、「鉄は熱いうちに打て (Strike while the Iron is Hot)」の精神に則り、その頭文字をとって「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」を平成27年度に設けました。

SIH 道場の授業では、専門領域の早期体験、反転授業、グループワーク、学修ポートフォリオなどのアクティブ・ラーニングを実際に体験することで、能動的学修の実践に必要な「文章力」、「プレゼンテーション力」、「協働力」等のラーニングスキルを体得していきます。現場での早期体験は1年次での学修と自分が目指している専門性を関連づけることで、学修意欲の向上に繋がるでしょう。さらに、「体験⇒リフレクション⇒概念化・抽象化⇒次への応用・実践」のサイクルを実践することで、経験から学び成長していく能力を身につけていきます。また、SIH 道場の授業を担当する教員も、自らの教育経験を振り返ることで、そのティーチングスキルを向上させ、学生のみなさんと共に学び成長していくことを目指します。

学生のみなさんは、SIH 道場で学んだアクティブ・ラーニングをこれから先の専門教育においてもぜひ実践してください。その過程で新しい価値観や考え方に触れ、成長する楽しさや喜びを感じとっていくことこそが、それぞれの領域でのプロフェッショナルに成長していく原動力となります。このようなアクティブ・ラーナーへの変貌を通して、みなさんの人生が豊かで実りのあるものになることを期待しています。

# 目 次

はじめに：新入生のみなさんへ .....	ii
目次 .....	iii
活用の手引き .....	iv
1. SIH 道場で学びの基礎を身につけよう .....	1
2. 専門分野を体験しよう .....	9
◇付録：「＜体験学習（専門分野の早期体験）＞ルーブリック」	
◇付録：「ワークシート：サンプル（体験学習）」	
3. ラーニングスキルを身につけよう .....	15
3-1. 「文章力」を身につけよう .....	16
◇付録：「＜文章力＞ルーブリック」	
3-2. 「プレゼンテーション力」を身につけよう .....	26
◇付録：「＜プレゼンテーション力＞ルーブリック」	
3-3. 「協働力」を身につけよう .....	33
◇付録：「＜協働力＞ルーブリック」	
4. 学修を振り返る習慣を身につけよう .....	39
◇付録：「＜学修の振り返り＞ルーブリック」	
◇付録：「リフレクションシート：サンプル A（授業毎）」	
◇付録：「リフレクションシート：サンプル B（SIH 道場終了後）」	
◇付録：「学修計画シート：サンプル C（SIH 道場のリフレクション後）」	
おわりに：今後の学修に向けて .....	47
役立ち情報：先輩たちの歩み .....	48
参照文献 .....	54
◇案内：SIH 道場の授業設計について提案してみませんか！？	

## 活用の手引き

本テキストは、SIH 道場の教育プログラムを通してみなさんが取り組む、「専門分野の早期体験」「ラーニングスキルの修得」「学修の振り返り」について、それぞれの学修目標と、目標に到達するための基礎的な学修内容や方法を記しています。

- ❖ 各節の扉では学修内容の概要を記し、各項目の始めに「学修目標」を掲げることで、みなさんが到達目標を意識する手がかりを示しています。
- ❖ SIH 道場の概要、3つのラーニングスキル（「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」）については、事前学習用のビデオ教材がWEB上に公開されています。テキストと合わせて視聴し、理解度を確かめるクイズにも挑戦してみましょう。  
\*ビデオ教材の視聴の仕方は、8頁で紹介しています。
- ❖ さらに学びたい人への参考として、文献案内を各節の終わりに掲載しています。本テキストで説明した内容は、基礎的なエッセンスにすぎません。参考図書等を読むことなどを通して学修をさらに深めて行きましょう。
- ❖ ラーニングスキル（「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」）を評価するための基準を示した表である「ループリック」をそれぞれの節の付録として付しています。それぞれの力について自己評価したり、学生同士で相互評価する際に使用するとよいでしょう。  
※体験学習と学修の振り返りのループリックもそれぞれの節の付録として付しています。自己評価する際に活用してみましょう。
- ❖ 専門分野の体験学習のワークシートは、事前学習、体験中、事後の振り返りの際の記録をとるために使用できます。学修の記録を残すことで、将来の目標に向けた振り返りがしやすくなります。
- ❖ リフレクションシートは、毎回の授業の振り返りや SIH 道場終了時の総合的な振り返りの際に使用できます。授業で得られたこと（得られなかったこと）や自分なりの感想、気づきを書き込みながら、これからの学修の目標を考えていきましょう。具体的な学修目標や計画を記す際は、学修計画シートを活用しましょう。

# 1. SIH 道場で学びの基礎を身につけよう



スマートフォン  
での閲覧はこちら

「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」は、徳島大学の1年生全員が受講する教育プログラムです。大学での学修の基盤となる知識、技能、態度を身につけるために、次の3つを目的としています。

- ①専門分野における先端研究の体験を通して、専門分野に対する興味関心を高め、徳島大学での学修・研究に対して意欲的に取り組むための心構えを身につける。
- ②能動的学修を行うために必要なラーニングスキル(文章力、プレゼンテーション力、協働力)の基礎を身につける。
- ③自らの学修経験を振り返ることで主体的に学修計画を立て、実施することができる習慣を身につける。

本節では、「SIH 道場」の概要について、詳しく紹介していきます。

# 1. SIH 道場で学びの基礎を身につけよう

## ◆学修目標

- ① SIH 道場の目的・概要について説明することができる。
- ② SIH 道場で修得する3つのラーニングスキルについて説明することができる。
- ③ SIH 道場を受講するために必要な事項の理解、適切な操作を実行するためのスキル、受講のための心構えを修得することができる。

## 1. SIH 道場とは？

### (1) SIH 道場の概要・目的

SIH 道場は、「鉄は熱いうちに打て (Strike while the Iron is Hot)」の精神に則り、徳島大学に入学したばかりの新入生を対象に、大学での学修において必要となる基礎を修得する、そのはじめの第一歩になるプログラムです。新入生の皆さんは、これまでに受験勉強として、すでに明らかにされている事柄について勉強し、正しい知識を正確に記憶するという学習を行ってきたのではないのでしょうか。

大学では、正確な知識を記憶するだけでなく、修得した知識を基盤として、まだ解明されていない未知の事柄や正解がただ一つだけではない事柄について「探求」していくことが求められます。また、気づいた人もいると思いますが、大学からは「学修」という漢字を使用します。これには、大学で修得する知識やスキルは、独立したそれぞれの専門分野、教育プログラム、課外活動、経験から学ぶのではなく、4年間、または6年間の教育課程全体を通して、「学び」「修めて」いくものであるという意味が込められています。

徳島大学に入学し、学部や学科において専門の学修を始めるためには、まず大学での学修スタイルは、高校までの学習スタイルと大きく異なることを認識し、大学で学修していくための準備を行うことが大切です。このSIH 道場では、高校生までの受動的学習スタイルから脱却し、能動的に学修するアクティブ・ラーナー（「2. 大学での学修：アクティブ・ラーニング」で紹介）へ変貌するための第一歩を踏み出す基礎力を修得します。

### (2) 学習の内容

SIH 道場では、大学での学修に対する意欲を高め、学修を行うために必要な基礎力を身につけるために、①専門分野の早期体験、②ラーニングスキルの修得、③学修の振り返りを行うこと、を主な内容として設計しています。それぞれの内容について、もう少し詳しく説明をしていきます。

## ①専門分野の早期体験

専門分野の早期体験は、その名の通り、みなさんがこれから学修しようとしている専門分野では、どのような研究が行われているのか、数年後にはどのような「探求」をしていくことになるのか、また卒業後にはどのような進路や現場が待っているのかについて、大学での学修を始める前に知っておくことを目的に実施します。

みなさんが大学での学修を通して目指すべき将来の目標と、学部や学科において学修する専門科目の内容とを関連づけることで、大学での学修について興味や希望を持ち、困難な時があっても心の支えになるみなさん自身の学修意欲を高めます。



## ②ラーニングスキルの修得

SIH 道場では、大学での学修を行うための基礎となるラーニングスキル（学修するためのスキル）を修得します。大学の授業では、知識の修得だけでなく、グループワークやプレゼンテーションを行う機会があり、レポート課題が出されます。知識を教えてもらうという受け身の姿勢ではなく、自ら積極的に授業に参加をして、必要な知識やスキルを修得して行くことが求められます。そのために必要となるラーニングスキルとして、

1. 文章力
2. プレゼンテーション力
3. 協働力

を修得します。

SIH 道場で修得するそれぞれのラーニングスキルについて、もう少し詳しく説明をしていきます。





## 1. 文章力

ここでの文章力とは、「自分の考え（学修した内容・考察）を文章による表現で、ルールを守り、効果的に相手に伝えることができる力」のことをいいます。

大学の授業が始まると、理系や文系の違いに関係なくレポート課題が出され、レポートを作成したり、高学年になると論文を作成したりすることがあります。それ以外にも、大学における学修の中では、どの分野であっても、自分が学んだことや身につけたこと、調査・研究したこと、その結果に対する考察などを文章で表現する機会がたくさんあります。

学術的な活動において、文章で表現する際には、それぞれの分野に応じて細かいルールがありますが、SIH 道場では、どの分野にも共通する基本的なルールとレポートを作成するための準備や方法について修得します。



## 2. プレゼンテーション力

ここでのプレゼンテーション力とは、「自分の考え（学修した内容・考察）を口頭による説明や資料を用いて、効果的に相手に伝えることができる力」のことをいいます。

大学での授業や学修においては、文章による表現と同様に、プレゼンテーションを行う機会もたくさんあります。授業の中で課題に対する結果や考察を発表することや、研究会や学会などで口頭発表を行うこともあります。また、就職の面接もプレゼンテーションといえることができます。

SIH 道場では、大学での学修活動において行われるプレゼンテーションについての、基本的なルールや効果的な方法について修得します。



## 3. 協働力

ここでの協働力とは、「1つの「課題」に対して、他者と協力して取り組むことができる力」のことをいいます。

大学における授業では、グループワークを行うことや、グループで1つの課題に取り組むことがあります。大学で学修していく中では、他者と協力して新しい知識や考えを生み出すことが求められます。また、社会生活においてもさまざまな文化、価値観、専門などの異なる人たちの協力を得ながら課題に取り組むことや、研究活動においても幅広い分野の人たちと共に大きなプロジェクトに挑むようなことがあります。

SIH 道場では、他者と協力して1つの課題に取り組むときに注意しなければいけないことやアイデアの発散、収束の仕方について修得します。



### ③学修の振り返りを行うこと

大学での学修は、これまでも述べたように、先生の講義を聞いて知識を記憶することだけではありません。グループワークやディスカッションを通して学ぶこともあります。さらに、教室内だけで終わることはありません。自宅で授業の予習や復習を行ったり、関連する内容を図書館などで調べたりすることもあるでしょう。また、合宿研修、現場体験やフィールドワークのように大学以外の場所で、体験を通して学ぶ機会もあります。

これらの学修形態では、ただ経験をするだけではなく、経験を通して自分自身に必要な知識やスキルを身につけていくことが重要になります。そこで、欠かせないのが「振り返る（内省する）」という行為です。

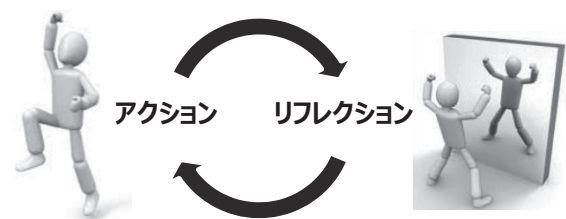
学修に関する最近の研究では、人は具体的経験をして、内省し、そこから教訓を得て、次の状況に適応するというサイクルを回しながら学んでいくことが明らかにされています。そして、この「振り返る（内省する）」ことが重要な理由として、具体的な行動をしたすぐ後に振り返ることで、より多くの教訓を引き出すことができると言われています。また、振り返りを行うことで、体験して学んだこと、学修した事柄を頭の中で整理して意識づけることができることも分かっています。つまり、振り返りの質がみなさんの成長に大きな影響を与えるということになります。

SIH 道場では、大学でのさまざまな学修体験において「振り返り」を実践していくための習慣を身につけることが目的です。

振り返りの質を高めるためには、振り返りを習慣化させ、振り返り（リフレクション）と行動（アクション）のサイクルを回していくことが大切です。そして、日常的に振り返りを行う習慣をつけるためには、まずは「体験（学修）をした後にすぐ振り返りを行う」ということを実行することです。振り返りを成長に繋げるために次の点について考えてみましょう。

#### □振り返りを行う時のポイント

- ◆体験（学修）した内容をまとめる。
- ◆体験（学修）から得られた知見をまとめる。
- ◆体験（学修）の前に立てた目標が達成できているかを評価する。
- ◆自分自身にとって重要な点をまとめる。また、その理由を考える。
- ◆今後のアクションプランを作成する。



SIH 道場での学修はもちろんのこと、その後の教養教育科目や専門科目の学修、またそれ以外の活動においても、これらを意識して振り返りを行ってみましょう。まずは、できることから実践して、大学生活でのさまざまな体験からより多くのことを学ぶことができるようになるための基盤を作りましょう。

## 2. 大学での学修：アクティブ・ラーニング

みなさんは「アクティブ・ラーニング」という言葉を聞いたことがありますか？これから大学での学修を始めていくにあたって、はじめにこのアクティブ・ラーニングについて、その言葉と意味を知っておいてほしいと思います。

みなさんはこれまでに高校や塾などで、先生から分かりやすく丁寧な説明を受け、大学受験のための問題の解き方や出題傾向などを教えてもらってきたのではないのでしょうか。そして、先生に指示された通りに問題を解き、頑張って勉強していくことで、成績が上がってきたと思います。それが、受験生であるみなさんに求められていた学習だったのではないのでしょうか。

しかし、大学での学修は、正確な知識を記憶するだけでなく、修得した知識を基盤として、まだ解明されていない未知の事柄や正解がただ一つだけではない事柄について「探求」していくことが求められます。授業のスタイルについても、座学による学修だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行うことがあります。また、授業の予習・復習についても、やるべき課題を先生から与えられるとも限りませんし、テストが定期的にあるとも限りません。

大学で身につけなければならない能力は、専門知識だけではありません。みなさんが卒業して出て行く社会では、少子高齢化、情報化、知識基盤型、グローバルという言葉で表現されるように、これまでに経験したことがない課題や新しいアイデアが求められています。そのような社会の中で必要とされる能力を大学生の間に培っておく必要があります。

このように、大学での学修においては、専門知識の修得に加え、社会生活でも必要な能力を修得することが求められます。現在、大学の各専攻分野を通じて培う能力として「学士力」（文部科学省 2008）というものが提唱されています。学士力に掲げられた汎用的技能（コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力）は、座学によって知識を記憶するだけでは身につけることができないと言われています。身につけた知識を発信したり、あふれる情報の中で適切なものを選択し解釈や分析を加えたり、他者とコミュニケーションをとったり、集団の中で自身の役割を認識して行動をしたり、これらの行為を通して学士力を身につけていくことができるとされています。

つまり、大学での学修は先生から一方的に教えてもらうのではなく、みなさん自身が主体的に専門知識を修得し、それらを他者に対してアウトプットし、コミュニケーションを図りながら、解を見出していくことが必要になります。そのような学修の方法を「アクティブ・ラーニング」といいます。「アクティブ・ラーニング」の定義は、さまざまところで述べられていて、徳島大学ではアクティブ・ラーニングを次のように定義しています。

### 徳島大学におけるアクティブ・ラーニングの定義

教員による一方向的な知識伝達とは異なり、課題演習、質疑応答、振り返り、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れることにより、学生自らが考え抜くことを教員が促し、学生の能動的な学修を促進させる双方向の教授・学修のこと。

また、その他にもアクティブ・ラーニングの定義として、文部科学省(2012)や溝上(2014)などによるものが知られています。みなさん自身で調べてみて下さい。

大学の授業スタイルは、座学による講義形式の授業も必要とされていますが、その中でも先生が一方向的にみなさんに説明をするだけで終わるといったスタイルものはなくなりつつあります。そして、授業でグループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行ったり、フィールドワークや合宿研修を実施したりする授業が増えています。これも、学生のみなさんがアクティブ・ラーニングを実践する場を共有するために設計されている授業なのです。これらの学修活動に主体的に関わってこそ、社会で必要とされ活躍することができる能力を身につけることができます。

SIH 道場で修得したラーニングスキルは、大学で学修を行うために必要なスキルにしかすぎません。これらのラーニングスキルを持って教養教育科目や専門科目の学修の中で主体的にアクティブ・ラーニングを実践してこそ、今回のSIH 道場での経験が活かされてきます。

これから始まる大学生活において、あらゆる場面で「アクティブ・ラーニング」を実践できるアクティブ・ラーナーになってほしいと思います。きっと卒業する時には、今とは見違えるほど成長した自分自身に出会えることでしょう。

※ WEB に、ビデオ教材「SIH 道場について」とクイズ（確認テスト）があります。



ビデオ教材の内容

スマートフォン  
での閲覧はこちら

1. 大学で求められる「学修」
2. SIH 道場の概要

ビデオ教材の視聴方法は、次項で説明します。

#### ◆さらに「アクティブ・ラーニング」などについて学びたい人へ：文献案内

文部科学省（2008）「学士課程教育の構築に向けて」

文部科学省（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」

溝上慎一（2014）『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂

中井俊樹 編著（2015）『アクティブラーニング（シリーズ教授法 3）』玉川大学出版部

### 3. ビデオ教材を使った事前学習

SIH 道場では、3つのラーニングスキルについて、学生のみなさんがいつでもどこでも学修することができるように、ビデオ教材を作成しています。授業の前にはビデオ教材を視聴して予習を行っておくことをお勧めします。また、視聴した後は、簡単なクイズに挑戦してみると良いでしょう。直後にクイズを行うことで教材の内容を振り返ることができます。また、分からなかった問いがあれば、もう一度ビデオ教材を見直すことで、内容を修得することができます。

#### 3-1 スマートフォンによる視聴

(1) スマートフォンでカメラアプリなどを立ち上げ、QRコードを読み取れる状態にする。

※ iPhone では、iOS11以降の場合、「設定」→「カメラ」→「QRコードをスキャン」をオンにすれば、カメラアプリでQRコードを読み取ることができます。iOS11以前の場合は、別途QRコードの読み取りができるアプリを取得してください。

(2) 教科書内のQRコードにカメラをかざし、読み取る。

#### 3-2 パソコンによる視聴

(1) ブラウザを立ち上げ以下のURLにアクセスしてください。

<https://www.tokushima-u.ac.jp/highedu/reform/sih/>



## 2. 専門分野を体験しよう



スマートフォン  
での閲覧はこちら

SIH 道場では専門分野の体験学習(早期体験)を行います。専門分野における先端研究の体験を通して、専門分野に対する興味関心を高め、徳島大学での学修や研究に意欲的に取り組んでいくための心構えを身につけます。

体験学習に臨む前に以下の点を確認し、有意義な機会となるように準備しましょう。

- ◇ なぜ専門分野を体験するのか
- ◇ 体験の前にどのような準備をしたらよいのか
- ◇ 体験学習にどのような心構えで臨めばよいのか

本節では、「専門分野の体験学習」のポイントを説明していきます。

## 2. 専門分野を体験しよう

### ◆学修目標

- ① 体験学習の目標を説明できる。
- ② 体験学習のための準備（事前学習）を行うことができる。
- ③ 体験学習から気づきを得ることができる。

### 1. 専門分野を体験しよう

#### SIH 道場で専門分野を体験する理由

みなさんは、所属する学部・学科などでの学修や大学生活について、イメージを描いているでしょうか。大学では、自分が所属する学部・学科に関連する学問分野のみを学ぶわけではありません。卒業後に職業人として働くうえで、幅広い視野でものを見て、倫理的に考え、行動できるような人間性が求められます。そのため、専攻する学問分野を集中的に学ぶ前に、教養教育院のカリキュラムを通して幅広い分野の学問を学び、大学での学修に必要な基礎や、人間性や倫理観、言語運用能力、専門分野に関する基礎的な知識を身につけていきます。

SIH 道場のプログラムでは、大学での学修の基礎となるラーニングスキルや、学修に対して意欲的に取り組む態度や振り返りの習慣を体験学習（専門分野の早期体験）を通して身につけていきます。専門分野の学びの入り口に立つ体験によって、これから学んでいく学問の内容やその先にある職業のイメージを掴み、学修への意欲を高めることができます。

体験学習を通して知ることができるのは、主に次の3つです。

- ① 専門分野で現在どのような研究が行われているのか
- ② 数年後に、自分がどのような「探究」を専門分野で行っていくことになるのか
- ③ 卒業後にはどのような進路や現場が待っているのか

体験学習の評価の観点には、「①事前学習」「②体験学習中の行動」「③体験学習後の気づき」「④専門分野への理解」の4つがあります。13 ページの体験学習（専門分野の早期体験）ルーブリック評価表で、「(A) 期待通りです」「(B) まずまずです」「(C) 努力しましょう」のそれぞれの尺度に該当する内容をあらかじめ確認しておきましょう。

SIH 道場での体験学習が、将来の研究や職業に関する見通しだけでなく、想定外の興味・関心をもたらす機会になることを心より願っています。

## 2. 「体験」の前に準備しよう

### 体験から自分自身の気づきを得よう

SIH 道場で実施されている体験学習の内容は、学部学科等によって異なります。先端研究の見学や体験、現場実習や臨床体験、芸術に触れる体験を直接的に行ったり、先輩や現場で働く人からのメッセージを聴くという形で間接的に体験したりなど、さまざまです。観たり聴いたり、作業したり、という体験のなかで、あるいはその体験の後で、振り返り（内省）を行うことで、体験からの「気づき」を引き出すことができます。この「気づき」を得ることで、専門分野への理解はさらに深まっていくことでしょう。

しかし、ただ現場に行って「体験」すれば、専門分野に関する「気づき」が自動的に得られたり、理解が深まったりする、というわけではありません。何の事前準備もなしに体験学習に臨んだのでは、単に「体験した」という事実とその場かぎりの感想しか残らない、ということになってしまいがちです。

体験学習を有意義なものにするためには、体験のための準備が必要です。観光旅行に行く前にガイドブックや地図で行先について調べて計画を立てた場合の方が、有意義な体験になるのと似ているかもしれません。ガイドブックを見ておおよその見当をつけていても、実際に現地に行ってみると思っていたのとは異なる感想・気づきを得られるものです。こうした感情・気づきは、事前の準備が十分なものであればあるほど深くなります（「専門分野について本を読んで～と思っていたけれども、臨床体験を行い、現場の人の話を聴いて、研究のやりがいや別の部分にもあることを実感できた」など）。事前学習によって学んだ知識や情報を使って体験学習を行うことで、学問分野での学びに関する理解を深めていくことができます。事前学習を十分に行うことで、体験学習が自分にとって意義あるものになるようにしていきましょう。

#### 事前学習のためのポイント

- 体験学習の中身について知り、必要となる準備が何かを考える
  - \* 事前学習の内容については、学部学科によって異なります。
  - ⇒ 授業担当の先生の指示にしがいましょう
- 体験学習の内容に関連する本や資料を読んでおく
- 現場の人に質問したい疑問点を考える

活動した内容は、「ワークシート：サンプル（体験学習）」（14 ページ）等へ書き出してみるとよいでしょう。

\*ワークシートの使用については、授業担当の先生の指示にしがってください。



### 3. 「体験学習」を行う

体験学習においては、事前学習を活かして積極的に取り組みましょう。ぼんやりと話を聴いたり、漫然と観たり、ただその場にいるということにならないよう、体験学習の目標を意識しながら能動的に参加しましょう。そして、観たり聴いたり、作業したりしながら、振り返り（内省、リフレクション）を行い、体験から「気づき」を引き出しましょう。

#### 積極的に体験するための心がけ

- 先頭に立って作業に加わる
- 1回以上質問する
- 疑問点や気づきをメモする
- 自分の思考を時折振り返る

また、体験学習を行う際には、以下の点に注意して、作業したり、現場の方や先輩の話を聴きましょう。

#### 体験学習のための心構え

- 開始時間までに間に合うように参加する（遅刻しない）
- 挨拶をきちんとする
- 正しい姿勢で話を聴く（行儀よくする）
- 集中力を保って話を聴く（スマホや携帯端末を触らない）

### 4. 体験学習後の気づきを得よう～専門分野の学修に向けて～

体験学習の後には、体験を通して得られた気づきを、事前学習で学んだ内容と関連づけましょう。そうすることで、体験学習で得られた気づきを、これからの大学での学修に活かすことができます。

まず、①自分が体験学習において何を行い、何を学んだのか、次に、②事前学習において、自分が学んだことを振り返って、それぞれ書き出してみましょう。そして、③事前学習で学んだことと体験学習で学んだこと（気づき）を関連づけてみましょう。例えば、「実際の体験では、工場で実習を行い、作業の難しさを実感した。事前学習として、実習の手順について教科書を見ながら予習し、体験学習の当日に臨んだけれども、機械を使ってやってみると思うようにはいかなかった。具体的には△△△。これからは、〇〇〇をもっと勉強していきたい」などの関連づけを行うことができます。みなさんの身近には学識豊かな先生、少し先を行く先輩もいますし、図書館には関連する資料も揃っています。体験学習で得られた気づきをきっかけに、知的好奇心を広げて大学での学修に貪欲に向かっていきましょう。

# SIH道場 体験学習（専門分野の早期体験）ルーブリック評価表

評価者（評価する人）：

制作者（評価される人）：

<b>課題</b>	SIH道場での「専門分野の早期体験」について、ルーブリックに基づいて自己評価してみよう。
-----------	--

尺度		
	(C) 努力しよう	
<b>観点</b>	(B) まずまずです	
(A) 期待通りです	(C) 努力しよう	
①事前学習	体験学習に関連する情報について収集したが、不足している点、または理解が十分ではない点があった。	体験学習に関連する事前情報を全く調べなかった。
②体験学習中の行動	マナーを守っているが、質問せず、先頭に立って作業に加わったり、疑問点や気づきをメモする、などをせず受動的だった。	挨拶しない、遅刻する、寝る、無駄なおしゃべり、体験と関係なくスマホや携帯端末を触る、の1つ以上があった。
③体験学習後の気づき	体験学習を通して得られた気づきを、事前学習で学んだ内容と、関連づけて説明（発表、記述）しようとはしなかった。	体験学習についてのみ説明（発表、記述）し、事前学習と関連づいた気づきがなかった。
④専門分野への理解	体験学習によって、自分の専門分野について理解した。	体験学習によって、自分の専門分野についての理解が得られなかった。

名前： \_\_\_\_\_

日付： \_\_\_\_\_

●事前学習で取り組んだこと

<授業で取り組んだこと>

<自分なりに予習したこと>

<体験学習で質問したい点>

- ・
- ・
- ・

●体験学習中に取り組んだこと

<活動内容>

<気づいた点・感想>

<質問した内容（得られた回答）>

●体験学習後の振り返り

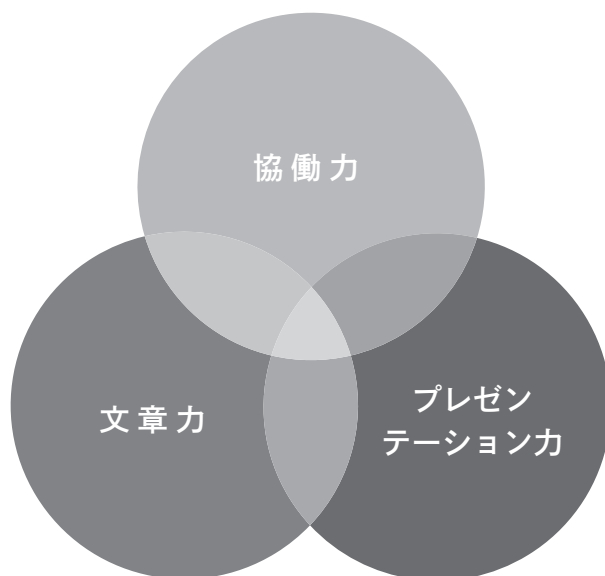
<体験学習で学んだこと>

<事前学習で学んだこととの関連づけ>

●教員コメント欄（学生は記入しないでください）

ワークシート：サンプル（体験学習）

### 3. ラーニングスキルを身につけよう



スマートフォン  
での閲覧はこちら

SIH 道場で、みなさんは能動的学修を行うために必要なラーニングスキルの基礎を学んでいきます。

本節では、「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」の基本的内容について具体例とともに説明していきます。それぞれの力についての「ルーブリック\*」を参照し、それぞれの力にどのような観点と基準があるのか、確認しましょう。

\*ルーブリックとは、評価の観点と尺度を記した表のことです。レポートやプレゼンテーションなどの学修成果を評価する際の基準となるものです。先生が採点の際に用いるのが一般的な使い方ですが、自己評価にも用いることができます。

ルーブリックで自分の立ち位置を確認して、さらに上のレベルを目指しましょう。

本節では、「3つのラーニングスキル」の基本的内容を説明していきます。

### 3-1. 「文章力」を身につけよう



スマートフォン  
での閲覧はこちら

#### ◆学習目標

- ① 大学のレポートと高校までの感想文・作文との相違を説明することができる。
- ② レポートにおける構成の仕方を説明することができる。
- ③ レポートに不適切な表現とは何かを説明することができる。
- ④ 資料や参考文献からの引用・要約のルールを守り、出典表示を適切に行うことができる。

#### 1. 概要

ここではレポートの書き方の基本を説明します。レポートには一般に、報告（書）という意味がありますが、ここで言うレポートは、もっと限定して大学の授業の課題として出される短い学術文書のことです。レポートや論文は本来学問上のツールですが、その作成の作業を通じて、情報を収集し分析する力、文献を読解し要約する力、批判的思考力、文章表現力など、社会において知的な作業をおこなう上で不可欠な諸能力を養成することもできます。

#### 2. 「文章力」の4つの観点と尺度

「文章力」には、「①主張の根拠付け」「②構成の明快さ」「③文章表現の適切さ」「④出典表示など」の4つの観点があります。以下では、これら4つの観点と、それぞれの「尺度」について、「＜文章力＞ループリック」（25 頁）に基づいて説明します。ループリックを参照しながら読むとよりわかりやすくなります。

紙面の制約のため、ここでは例を用いた説明が中心となりますが、「文章力」には、「プレゼンテーション力」「協働力」と同様に、Web で観られるビデオ教材によるやや詳しい説明もあります。

##### （1）「①主張の根拠付け」

高校までの読書感想文や作文では、個人的な体験や主観的な感情を書いてもよく、それで評価されるという面もあったかもしれません。その影響か、学生のレポートにも以下のような箇所が見られます。

例 1) 私は小学生の頃野球を始めた。小・中のときはプロ野球選手を、高校のときは甲子園大会出場を夢見て、日々練習に取り組んでいた。そう、私は当たり前のように野球をしていたのだ。

例 2) 私はこの本を読んで、今生きていることにもっと感謝し、親孝行して生きていこうと思った。

例 3) この小説の後半は涙なしには読めませんでした。ストーリーの前半は大貴の傲慢な振る舞いに腹が立ち、他の個性の強い登場人物にかき回され〔・・・・〕

しかし、大学のレポートでは、唐突に道徳的なことを述べたり、大げさな感情表現をしたりするのは避けた方がよいでしょう。それはむしろマイナスに評価されます。レポートは、ある主張を述べ、それを根拠付けるものであり、客観的、一般的な書き方をすべきです。個人的な体験については、書かない場合が多いのですが、このような根拠付けに役立つかぎりにおいて、分野によっては許容されることもあります。

以下の2つの例では、書き手の主張とその根拠付けが、論理的に明確になされています。

例 4) いじめを防止するために、小中高にも大学のような、自分で受けたい授業を決め授業によって移動する制度を導入すればよい。毎日同じ教室で同じクラスメート、皆で同じ授業を受けるといった状況では人間関係も固定しやすい。大学のような方法だと毎回授業によってメンバーが変わるので人間関係が固定しにくくなり、クラス内で上下関係が決まってしまうといった、いじめになりやすい環境になるのを防止できると思う。

例 5) 著者はヘイト・スピーチに対して「他者の人権を侵害するような表現は表現の自由の乱用であり許されない」と述べている。私も同意見である。1948年に採択された「世界人権宣言」では、すべての人間が生まれながらに人権を持っているということが宣言されている。表現の自由が保障されているからといって、他者(主にマイノリティ)の人権を傷つけていいはずがない。

それでは、以下の例で主張は根拠づけられているかどうか、考えてみてください。

例 6) 彼ら〔イギリス人〕の活力は一杯のティーから来ると言っても過言ではない。なぜなら、18世紀には体に害を与えるお酒よりも茶の方が健康に悪影響を及ぼさず、むしろ積極的に飲んだほうが健康によい、と労働者の中で言われ始めたからだ。

この根拠付けでは不十分です。「言われ始めた」だけで茶が活力の源になるとは考えにくいからです。4や5のような例は、この観点では「(A) 期待通りです」の評価となりますが、それ以外の例は、「(B) まずまずです」「(C) 努力しましょう」の評価の原因となるでしょう。

**要点：レポートにおいては、主張を述べ、その根拠を示さなければならない。**

## (2)「②構成の明快さ」

レポートの構成は、読み手から見てわかりやすいのがよいでしょう。複雑であるよりもシンプルな方がわかりやすく、書き手も見直しがしやすくなります。また、はじめに素材や着想を短い言葉で列挙し、それらを自然な、説明しやすい順序で並べ、だいたいの全体構成を決めてから書くようにしましょう。それでうまくいかないこともあります。そのときは補足や削除、順序換えをして当初の構成を修正し、書き直しをします。このような作業の繰り返しはレポート作成である、とも言えます。

構成を考える上で手がかりとなるのが、**段落と接続表現**です。段落は、関連のある複数の文をまとめたもので、ひとまとまりの一貫した内容を表現します。その内容とあまり関係のない要素は、同じ段落の中に書かないように整理しましょう。文と文、段落と段落の関連づけをするのが、接続表現です。前後の論理的な関連づけを意識して、適切な接続表現を使いましょう。まずはよくない例を挙げてみます。

例 1)今回、この読書レポートに用いた本はさまざまなテーマについて論じている。ゆえに本レポートではその中から日本のエネルギー問題について論じる。

「ゆえに」を用いているのに、後文は前文の帰結になっていません。むしろ接続詞がない方がうまく通じます。

例 2)捕鯨支持国の日本では、縄文時代から鯨肉は食されており、戦後には食糧問題の改善策として鯨が用いられた。それ以来、捕鯨というものは日本の伝統的な文化となっている。

「それ以来」の「それ」は縄文時代なのか戦後なのか、両方とすれば幅がありすぎます。「それ以来」を「このように」に換えるのならよいかもしれません。

全体の構成の例としてよく見られる基本的なものは、「序論・本論・結論」です。多くの場合、序論と結論は短めで本論が長めになります。序論では、何を主張するか、どんな問題設定をするか、どんなテーマを扱うかを示し、これによってレポートの目標を明らかにします。理科系の場合には、序論で結論があらかじめ示されることが多いようです。本論は、序論の問題設定などを受けて結論へと至る筋道や主張の根拠付けを示す部分で、たいていはさらにいくつかの部分に分かれています。結論は序論の目標に答える部分であり、本論の内容から導かれる全体の主張を明確に示します。

この観点で A 評価の例を挙げてみましょう。新入生に課された読書レポート（字数制限は A4 で 1 枚、1000 字程度まで）で、杉浦由美子『女子校力』（PHP 新書、2013 年）という本を読んで書かれたものです。ついでに、レポートの形式的な点について、傍注を加えてみます。



## 女子校と男女共学校の問題について

〇〇学部〇〇学科〇年

学籍番号〇〇〇

〇〇〇〇

読書レポートを書くにあたって、中学・高校と女子校に通い、現在は現代女性にライフスタイルについて執筆活動を行っている杉浦由美子の『女子校力』を読んだ。杉浦が78人の女子校出身者を取材し、それをもとに、女子校出身者の特徴や彼女らの体験談などについて書いた本である。私は男女共学校で育ったため、女子校のことは全くわからない。しかし、女子校および男女共学校のそれぞれの特徴から考えて、長い学校生活において、男女共学校と女子校のどちらに通うのがよいのだろうか。以下では、これについて考察する。

まず、女子校の利点と欠点を挙げる。利点は、①自分の意見をはっきり言える(p.59)、②周りを気にせず好きなことができる(p.90, p.195)、③違うタイプの生徒同士が互いに認め合い、互いに干渉しない(p.5)、④スクールカーストがほぼない(p.50, p.79-80)、などである。欠点は、①世間がない、②男のメンツが読めない(p.181)、③空気が読めない(p.175-176)、などである。

次に、男女共学校の利点と欠点を挙げる。利点は、①周りの動きを見て行動することができる(p.169-174)、②さまざまな考え方の人がいるため人間的に成長できる(p.60-61)、③周りに気を使うので、モラルが生まれる、④男女の違いを理解して行動できるようになる(p.113-114)、などである。欠点は、①自分の意見をはっきり言えない(p.194)、②スクールカーストがある場合が多い(p.60-63)、③空気を読みすぎて仕事をさぼることがある(p.170-171)、などである。

比べてみるとわかるが、女子校の利点と男女共学校の欠点、それから女子校の欠点と男女共学校の利点がほぼ対になっている。どちらか一方だけ通うとなると、欠点は残ってしまう。しかし、どちらにも通うことで、女子校の欠点と男女共学校の欠点をほぼ補うことができる。つまり、女子校にも男女共学校にも通うことを経験するのが一番よいのだ。単純に言えば、学校を卒業した後いろいろな世代の人や価値観の違う人といっしょに仕事をすることを考えると、自分の意見をはっきり言う力も、周りの空気を読む力も必要なのである。

### 参考文献

杉浦由美子『女子校力』PHP新書、2013年

**コメント [u1]:** 内容にふさわしい表題をつけます。本文より少し大き目の太字にするのがよいでしょう。例えばここでは、本文が10.5ポイント、表題が14ポイントです。

**コメント [u2]:** ここには、レポート作成者の所属、学籍番号、氏名などの情報を書きます。

**コメント [u3]:** 段落の最初は、一字分下げます。

**コメント [u4]:** 参照注の書き方については、「④出典表示など」の項を見てください。普通は、著者名や書名、出版年などの情報を、本文中の括弧内や脚注などに提示しますが、このレポートの参考文献は一冊のみなので、ページ数だけで十分です。

**コメント [u5]:** 参照箇所が2ページ以上になるときは、pp. とします。

**コメント [u6]:** 最後に参考文献表を添えます。文献が複数の場合、著者名のあいうえお順か、出版年順に並べます。

この文章には、4つの段落があります。第一段落が序論に当たり、ここで「男女共学校と女子校のどちらに通うのがよいか、以下で考察する」と、問題設定がなされます。続く2つの段落は本論に当たり、第二段落では女子校の利点と欠点が簡潔にまとめられ、それぞれの根拠となる本の箇所がページ数付きで示されます。第三段落では、男女共学校の利点と欠点が同様の仕方で列挙されます。第四段落は結論です。このように全体の構成はシンプルです。

そして、この学生が下した結論は、「女子校にも男女共学校にも通う経験をするのが一番よい」というユニークなものでした。実際、女子であれば共学の高校から女子大への進学なども可能です。その根拠は次のように書かれています。「女子校の利点と男女共学校の欠点、女子校の欠点と男女共学校の利点が対になっている。一方だけ通うと欠点は残る」と本論のまとめを受け、「しかし、どちらにも通うことで、女子校の欠点と男女共学の欠点をほぼ補うことができる」と結びます。この論理も明快です。細かい点では改善の余地もあるでしょうが、いろいろな制約の中で初めて書くレポートとしては、よいできればえのものとなっています。



要点：レポートの構成はわかりやすくすべきであり、論理的関連づけを意識して適切な接続表現を使うべきである。

### (3) 「③文章表現の適切さ」

レポートでは、間違っただ表現や誤解を招く表現を避け、読み手にとってわかりやすい書き方をすべきです。また、普通は正しいとされている表現やよく使う表現であっても、レポートには不適切な場合もあります。具体的には、「です・ます調」は使わず、「だ・である調」で書きます。また、話し言葉も使用すべきではありません。例えば、「……とか」「……なんて」「……みたいな」「言ってる」「ちゃんと」「ざっくりした」「すごく」「超」「なんで」などが話し言葉です。

次の例は、ある学生が書いたレポートの結論部ですが、問題点はどこにあるでしょうか。

例1) 合理的と非合理的、このバランスが上手いこと釣り合った先にその「理性の最後の一步」が見えてくるのでは？と著者も教えてくれています。自分の中でもそのバランスを意識しながら広い視野を意識し大学生活また今後の人生も送ってみようと思った。

まず、「います」と「思った」というレポート以外でも禁じ手の語尾の不統一があります。「上手いこと」「見えてくるのでは？」は話し言葉なので、「うまく」「見えてくるのではないか」の方がよいでしょう。「？」や「！」は正式な日本語の文章ではあまり使いません。「意識しながら」「意識し」という重複も気になるので、例えば後の方を「持つように努めて」に修正するとよいでしょう。また、内容的に、結論が個人的抱負になっている点も問題です。

主語と述語など、前後がうまく連結されていないという「係り受け」の問題点も、学生のレポートにはよく見られます。文が長いとこの誤りに陥りやすく、読み手にとってもわかりにくくなるので、なるべく長文を書かないのが無難です。次の例を見てみましょう。

例2) そのような面からしても、フリーメイソンが日本では謎の秘密結社であるというイメージを持たれる理由なのではないか。

「そのような面からしても」を生かすなら、「持たれるのであろう」などで終わるべきでしょうし、「理由なのではないか」を変えないのなら、「そのような面が」で始めるべきでしょう。

誤解を招く表現でよく見られるのは、修飾関係が幾通りかにとれてしまうような文で、ひとつの形容詞(句)が複数の名詞を修飾する可能性、あるいはひとつの副詞(句)が複数の動詞を修飾する可能性などがあります。できるかぎり、解釈がひとつに限定されるような書き方を心がけましょう。

例3) 日本政府は紛争の長期化を回避するため会議に参加しなかったパキスタン政府へ再度打診を試みた。

下線部は、会議に参加しなかったパキスタン政府の意図なのか、再度打診を試みた日本政府の意図なのか、この文だけではわかりません。このような問題は、読点（、）を意識的につけることや語順を変えることにより回避できます。例えば日本政府の意図であるならば、「〔・・・・〕パキスタン政府へ、紛争の長期化を回避するため再度打診を試みた」とすれば解決します。

この観点での評価は減点法であり、誤字脱字や上述のような表現上の問題点がほとんどなければ「(A) 期待通りです」、1000字（A4で1枚程度）あたり4つまでであれば「(B) ますますです」、5つ以上であれば「(C) 努力しましょう」となります。レポートの相互評価をする場合は、自分の好みを規則として押し付けられないよう、寛容と自己批判の態度で臨みましょう。正しい書き方はひとつではなく、幅があるのです。

ちなみに、表現力を身につけるには、なんといっても書に親しむこと、読書の習慣をつけることが肝要です。それも、ノウハウ本やライトノベルなどの読みやすい本ではなく、いわゆる古典、名著と呼ばれている本を、比較的時間のある学生時代に読むことをおすすめします。これらは先人の知恵の結晶であり、それを読むことで知性や感性を磨き、人生の糧とすることができます。論理的な文章に慣れるには、岩波新書や中公新書、ブルーバックスなどで自分の興味ある対象を扱っているものから入るのがよいでしょう。これらの書物をたくさん読んでゆくうちに、多様な表現に慣れ、自分でも使えるようになるだけでなく、想像力や発想も豊かになり、結果としてさまざまな意味でレポートも書きやすくなります。文章力養成には回り道かもしれませんが、それは楽しく有益な回り道となるでしょう。

要点：レポートにおける不適切な文章表現とは、文法的な誤り、誤解を招く（多義的な）表現、話し言葉、です・ます調などである。

#### (4)「④出典表示など」

高校までは、本やインターネットで調べたことをそのまま何の断りもなく発表しても咎められず、ほめられることさえあったかもしれません。しかし大学では、それは剽窃（盗作）、コピペなどと言われ、不正行為とみなされます。それは他者の創作物を自分のもののように偽ることであり、知的誠実さの欠如、著作権の侵害ということになるからです。他者の著作を参照（引用・要約）するさいは一定のルールや方法に従い、さらに出典を明示しなければなりません。そうすることで、関心を持った読者がさらに自分で調査することも可能となる、というよい点もあります。

引用は、正確・厳密におこなうべきであり、原文と違ったものにしてはいけません。（ただし、長い引用の中の不要な部分は〔中略〕または〔・・・〕で省略します。）この原則は内容的にも適用すべきもので、前後の文脈を無視した引用はしてはいけません。例えばある著作の中で反駁されている主張を、擁護されている主張であるかのように引用するのは間違いです。また、自分のオリジナルな部分と他者の著作から引いてきた部分は、明確に区別しなければなりません。

引用部分は、短い場合は「 」でくくり、長い場合は上下を一行分あけて一字か二字分インデントをずらして書きます。他者の著作の内容を自分なりの言葉でまとめる要約の場合にも、どこからどこまでがその部分なのかを、「〔人名や書名〕によれば」などの表現で示し、自分のオリジナルな部分とは明確に区別します。もうひとつのルールは、自分のオリジナルな部分の方がメインであるべきで、引用や要約が多すぎたり長すぎたりするのはよくないということです。

出典表示については、参照注と文献表により読者が引用などの出所に確実にたどり着けるよう、必要な要素を示します。参照注のひとつの方法は、引用や要約の直後に（ ）つきの情報を示すもので、著者名(姓のみ)、発表年、引用ページを挙げます。例えば、日本語の文献の場合は（樋口, 2014, pp.117-118）、英語の文献の場合は（Clyne, 2003: 59）のような仕方です。

- 書名など詳細は、次のような形でレポート末尾の参考文献表に記します。

樋口直人 (2014) 『日本型排外主義』 名古屋大学出版会

- 欧文文献の書名はイタリックにします。

Clyne, M. (2003). *Dynamics of Language Contact*. Cambridge: Cambridge University Press.

- 参照される論文が、本（論文集）や雑誌に掲載されていることもあります。その場合、和文文献では書名（または雑誌名）を『 』に、論文名を「 」に入れ、欧文文献では書名（雑誌名）のみイタリックで書くのが普通です。末尾の数字は、論文が掲載された雑誌の巻号とページを示しています。

村田明広 (2003) 「徳島県木沢地域の黒瀬川帯北緑部の地質構造」『徳島大学総合科学部自然科学研究』 17,7-17

Cohen, J. (1992). A power primer. *Psychological Bulletin*, 121, 155-159.

- 文献表に挙げられたものは著者名の 50 音 (欧文はアルファベット) 順か発行年順に並べます。
- インターネットの情報については、参照したホームページの作成者名、表題、URL と (更新されることがあるので) 検索した日付を注などに明記します。

厚生労働省 2007 ニートの状態にある若年者の実態および支援策に関する調査研究  
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2007/h0628-1.html> (アクセス: 2017年2月24日)

参照注にはもうひとつの方法があります。著者名 (姓名とも)、『書名』、出版社、出版年、引用ページの順で記し、本文中の引用の直後に添えるのではなく、脚注か文末注にします。一例を挙げます。川島重成、高田康成『ムーサよ、語れー古代ギリシア文学への招待』三陸書房、2003年、98頁。参考文献表にも、ページ数以外の要素を同じ順序で記します。ちなみに、次頁の文献案内はこの第二の方法にしたがって書かれています。

出典表示のルールや慣習については、学問分野によって多少相違がありますので、詳細については各授業の担当教員の指示にしたがってください。

**要点：資料や文献を参照するさいは、引用・要約した部分と自分のオリジナルな部分を明確に区別し、出典を明示すること。**

◆さらに「文章力」について学びたい人へ：文献案内

小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年

☞少々細かすぎる点や決めつけもあるが、出典表示の仕方については非常に詳しい。卒論の書き方、スケジュールの立て方まで書いてある。

古郡廷治『文章ベタな人のための論文・レポートの授業』光文社新書、2014年

☞断定的決めつけはあまりなく、いろいろな可能性を想定し、具体例が多くわかりやすい。

山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』新曜社、2013年

☞出典表示のルールに詳しいだけでなく、学生レポートによく見られる当たりさわりのない一般的結論への批判もなされている。

本多勝一『日本語の作文技術』朝日文庫、1982年

☞文章作法一般に関する解説書で、多くの規則を少数に収斂させる合理的方針に従っている。有名作家や自分自身の文章さえも槍玉に挙げる批判精神は参考になる。

松本茂、河野哲也『大学生のための“読む・書く・プレゼン・ディベート”の方法』玉川大学出版部、2007年

☞ライティングだけでなく汎用技能一般についての優れた入門書で、深いところまで立ち入っている。

大野晋、浜西正人『類語国語辞典』角川書店、1985年

☞何かを表現しようとして思いついた言葉よりもっと的確な表現があるはずなのだが、それが出て来ずもどかしい思いをしたときに言葉を探す本。語彙力強化や翻訳にも役立つ。

黒田龍之介『大学生からの文章表現 無難で退屈な日本語から卒業する』ちくま新書、2011年

☞著者はロシア語の先生だが、レポートに限定せず読ませる文章を書くことを目的とした授業の体験をもとに書いた本。語り口も面白いが、特に学生の例文の中には、笑いを誘うものがある。

# SIH道場 ラーニングスキル<文章力>ルーブリック評価表

評価者 (評価する人) :

制作者 (評価される人) :

<b>課題</b>	<p>(例) 先輩からのメッセージ「〇〇工学の最先端技術と徳島大学での学び」を聞いて、あなた自身が学んだこと、また〇〇学科における学習関する目標について、A4用紙1枚 (約1000文字) にまとめて下さい。</p>
-----------	---

尺度			
	(A) 期待通りです	(B) まずまずです	(C) 努力しましょう
<b>①主張の根拠付け</b>	主張が明確で、その根拠付けに説得力がある。	主張があままり明確でない。または、主張の根拠付けに不十分な点がある。	主張がない。または、主張の根拠付けがないか、不適切である。
<b>②構成の明快さ</b>	段落や全体の構成が、内容や論理にしたがって明快になされている。	段落や全体の構成がある程度できているが、なお不十分な点がある。	段落や全体の構成に一貫性がなく、不明瞭である。
<b>③文章表現の適切さ</b>	誤字脱字、文法的誤り、誤解を招く表現、話し言葉など、不適切な文章表現がほとんどない。	誤字脱字、文法的誤り、誤解を招く表現、話し言葉など、不適切な文章表現が1000字(A4で1枚)当たり5件未満である。ただし、同一の誤りが複数あっても1と数える。	誤字脱字、文法的誤り、誤解を招く表現、話し言葉など、不適切な文章表現が1000字(A4で1枚)当たり5件以上ある。ただし、同一の誤りが複数あっても1と数える。
<b>④出典表示など</b>	参考文献・資料からの引用・要約の仕方が適切で、出典表示も明確になされている。	参考文献・資料の内容と自分の意見との区別や出典表示がなされているが、なお不十分な点がある。	参考文献・資料の内容と自分の意見との区別がなされていない。



## 3-2. 「プレゼンテーション力」を身につけよう



スマートフォン  
での閲覧はこちら

### ◆学修目標

- ① 「プレゼンテーション力」とは何か、説明することができる。
- ② 「プレゼンテーション力」の3つの観点を説明することができる。
- ③ 効果的なプレゼンテーションを行うためのポイントを説明することができる。

### 1. 概要

生まれた直後の赤ん坊は、泣くという手段で親に「お腹が空いた」、「オムツが濡れて気持ち悪い」、「眠い」という感情を伝えています。子供になったら「～を買ってほしい」、「お小遣いを上げてほしい」ということを、大人になっても「共に～しよう」、「結婚しよう」などと、相手に自分の主張（意見）を伝えながら、社会生活を送っています。家庭・学校、大学・会社・地域社会などにおいて自分の主張を伝え、さらには説得しているのであれば、それは立派なプレゼンテーションと言えるでしょう。

プレゼンテーション = 主張すること

#### (1) 「プレゼンテーション力」の必要性

上のプレゼンテーションにおいては、単に主張のみを繰り返すだけでしょうか。赤ん坊ではできないでしょうが、子供になったらその主張をする理由も合わせて述べているのではないのでしょうか。これがプレゼンテーションの核となります。理由から主張を導くプロセスは、日常生活だけでなく、科学研究の中でも、あるいは社会（会社、地域社会）においても常に行われています。

では、自分の主張を理由とともに相手に説明すると、相手にただちに主張を理解してもらえるのでしょうか？必ずしも理解してもらえない場合もあるのではないのでしょうか。相手に理解してもらうための「作法」があるのであれば、それを身につけておくことで、社会生活に役立てることが可能となります。

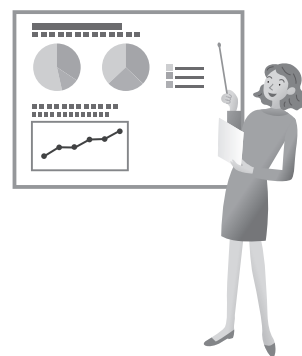
プレゼンテーション力 = 理由をつけて主張する「作法」

#### (2) 大学における「プレゼンテーション力」

上の説明でみたように、一般にプレゼンテーションは広い意味を持ちますが、これ以降での「プレゼンテーション」は、発表者が文章や図などを提示しながら、内容を相手に説明す

る、あるいは説得することとします。一般的には口頭で話す発表を思い浮かべるでしょうが、紙媒体のみの文章、あるいは動画などもプレゼンテーションに含まれます。紙媒体による文章のプレゼンテーションについては「3-1.『文章力』を身につけよう」(16ページ~25ページ)で示されていますので、ここでは主に、口頭で話すことにより、伝えたい内容を説明するプレゼンテーションについて説明します。

大学におけるプレゼンテーションの機会の代表としては、「卒業研究発表」が挙げられます。1年間程度の期間に、課題を発見し、研究し、卒業論文としてまとめるとともに、卒業研究発表の機会があります。そうした場で、自分の1年間の研究の成果(主張)を説明できることが、大学における「プレゼンテーション力」と言えるでしょう。こうした卒業研究を最終目標にして、授業・演習・実験・実習の中で様々なプレゼンテーションの機会が設けられています。また、就職における面接も、自分を説明し、入社を説得するという意味でプレゼンテーションと言えるでしょう。



大学においては、様々な知識を学んでいきます。単に知っているだけでなく、学んだ知識を生かす能力を身につけていくことが大切です。みなさんは学んだ知識を使って、自分の理解の幅を広げていくことになるでしょう。そして自分が理解した中から、課題を発見し、他人と共有していくといったことも大学で体験していきます。学んだ知識を積み重ねて主張を正しいものにしていく考え方は、「ロジカル・シンキング」と呼ばれています。つまり「論理的に考えることができる」ということです。大学におけるプレゼンテーションにおいては自分の主張や理由に、学んだ知識を論理的に組み込んでいくことを意識してください。

論理的に考え、プレゼンテーションをすることを短期間にマスターすることは難しいでしょう。徳島大学ではSIH道場において、プレゼンテーション力を身につけるための第一歩となる場を提供しています。まずはこのテキストとビデオ教材\*で学び、授業の中で体験していきましょう。

**大学における「プレゼンテーション力」 = 学んだ知識を使って論理的に主張できる**

\*「プレゼンテーション力」には、WEBで観られるビデオ教材とクイズ(確認テスト)があります。視聴方法については、「ビデオ教材を使った事前学習」(8ページ)を参照してください。



## 2. 「プレゼンテーションカ」の3つの観点と尺度

「プレゼンテーションカ」には、「①内容の構成」「②姿勢」「③視覚資料」の3つの観点があります。以下では、これらの「観点」と、3つの尺度（「(A) 期待通りです」「(B) まずまずです」「(C) 努力しましょう」）について、「<プレゼンテーションカ>ループリック」（32ページ）に基づいて説明します。

### （1）「①内容の構成」

プレゼンテーションには、相手に内容を理解してもらう「説明のプレゼン」と、相手に行為を要求する「説得のプレゼン」があります。そのどちらであっても

理由（根拠+論拠）→結論・主張

を論理的に構成していきます。理由を複数述べるといった場合には、論理の構造を発表者だけでなく、聞き手にも理解してもらえるように工夫しましょう。

※ WEB に、ビデオ教材「内容の構成」とクイズ（確認テスト）があります。



スマートフォン  
での閲覧はこちら

ビデオ教材の内容

1. プレゼンテーションの目的
2. アカデミックなプレゼンテーション
3. どの順番で伝えるのがよいか

課題 次の事柄について説明してみましょう。

- （1）根拠とは
- （2）論拠とは
- （3）論理的考え方の例として演繹的推論、帰納的推論とは

▶ループリック評価表（32ページ）の「(A) 期待通りです」の例：

- ◇ 主張・結論が明確である。
- ◇ 根拠が示されている。
- ◇ 論拠が示されている。
- ◇ 理由と結論・主張をわかりやすい順番で構成している。

※これらがすべてできていた場合、「(A) 期待通りです」と評価しましょう。

▶ループリック評価表（32ページ）の「(C) 努力しましょう」の例：

- ◇ 理由が不明瞭である。

☞まずは、観察や実験を通して得られた発表者のみが持っている理由であるのか、文献に記述されている文章・考え方（この場合は引用して理由とする）なのか、

一般的に教科書などに記述されていることがらなのか、を区別してみましょう。  
そして、どれが根拠で、どれが論拠かを考えてみましょう。

◇ 主張・結論が不明確である。

☞主張・結論が不明確であるのは、プレゼンテーションの構想が未熟だからです。  
さらなる根拠を求めたり、論拠を学習することを通じて構想をさらに練っていきましよう。

☞反論を恐れるあまり、わざと主張・結論を不明瞭にしていますか。聞き手からの反論を通じて議論をすることは、同じ課題に対し異なる意見があることを知る絶好の機会です。反論を極度に恐れず、主張・結論を明確にしていきましよう。

◇ 理由と結論がわかりやすい順序で構成されていない。

☞理由が不明瞭なのか、主張・結論が不明確なのかを見極め、補強し、再構成してみましよう。

※理由と結論がわかりやすい順序で構成されていない場合、「(C) 努力ましよう」と評価ましよう。

## (2) 「②姿勢」

話すプレゼンテーションにおいては、説明や説得する内容だけでなく、発表者が内容に向き合う姿勢も同時に伝えています。具体的には発声、視線、表情、体の姿勢（ボディラングージ）などが姿勢と言えます。大学におけるプレゼンテーションは論理的に話を展開していくため、非日常的な行為です。いきなりプレゼンテーションの本番を迎えるのではなく、練習を通して発表の姿勢を学ぶようにましよう。

※ WEB に、ビデオ教材「姿勢」とクイズ（確認テスト）があります。



スマートフォンでの閲覧はこちら

ビデオ教材の内容

1. プレゼンテーションの手法
2. 話すプレゼンテーション
3. 練習

▶ループリック評価表（32 ページ）の「(A) 期待通りです」の例：

- ◇ 声が発表会場に十分届いている。また、語尾まではっきりと発声している。
- ◇ 会場の聞き手に視線を向け、どのような反応であるかを見極めている。
- ◇ 自信をもった表情で発表している。
- ◇ 口を動かすだけでなく、時々ボディラングージを使い、内容を伝える姿勢が見られる。

※上の4項目がほぼできていた場合、「(A) 期待通りです」と評価ましよう。

▶ループリック評価表（32 ページ）の「(C) 努力しましょう」の例：

- ◇ 声が小さく、発表会場の一部にしか届いていない。
- ◇ 語尾が不明瞭である。
- ◇ 視線が視覚資料または原稿に向いたままで、会場の聞き手をほとんど見ない。
- ◇ 自信がない表情で発表している。
- ◇ ボディランゲージを全く使っていない。

※説明する内容を聞き手に理解してもらう姿勢がなく、淡々と発表をこなしている場合「(C) 努力しましょう」と評価しましょう。

### (3)「③視覚資料」

プレゼンテーションといえば、パワーポイントのような映像を見せながら話すというイメージがあるでしょう。話という聴覚ではなく、視覚を通して伝えたい内容の理解を助けるための資料を「視覚資料」と呼びます。具体的には、パワーポイントのようなパソコンによるプレゼンテーション・ソフトだけでなく、黒板、ポスター、ビデオ、といったものも含めて視覚資料と呼んでいます。

プレゼンテーションの準備とは視覚資料を作成することと思いがちですが、実は視覚資料を作成する前に準備しておくことがあります。発表する内容そのものを調べるだけでなく、関連する文献を読み込む、発表のテーマを絞り込む、結論・主張を決める、構成を考えるといったことは、視覚資料を作り出す前に十分に行う必要があります。「②姿勢」の項目では、プレゼンテーションにおいては内容だけでなく、発表者が発表内容に向き合う姿勢も伝えられていると述べました。人生すべてが今後のあらゆるプレゼンテーションの準備とも言えるでしょう。

※ WEB に、ビデオ教材「視覚資料」とクイズ（確認テスト）があります。



スマートフォン  
での閲覧はこちら

ビデオ教材の内容

1. 視覚資料づくりの前に
2. 何を提示するか
3. わかりやすい視覚資料とは

▶ループリック評価表（32 ページ）の「(A) 期待通りです」の例：

- ◇ 理由を説明するのに十分な文章、表、グラフ、図、式などが盛り込まれている。
- ◇ 無駄な情報がなく、「見せる」視覚資料になっている。

▶ループリック評価表（32 ページ）の「(C) 努力しましょう」の例：

◇ 必要な情報が不足している、または無駄な情報がある。

☞発表者がどういった根拠・論拠に基づいて結論・主張に至ったのかのプロセスを、聞き手に理解してもらうためには、適切な資料を用意しなければなりません。どの情報が大切であり、どの情報が不足しているのかは、単に発表者の準備の問題だけでなく、どのような聞き手を相手にプレゼンテーションするのかによって変化してきます。

☞プレゼンテーションの失敗が続いたからといって、自分はプレゼンテーションに向かないと決めつけないでください。プレゼンテーション後の議論の場で、聞き手の反応を確かめ、自分の発表のどこが不足または過剰であったかを振り返ることで、次のプレゼンテーションはもっと良いものとなるでしょう。

◇ 「読ませる」資料になっている。

☞プレゼンテーションにおいて伝えたい内容を、そのまま文章にすることを「読ませる」資料と言います。これは望ましくないとされています。聞き手には、見出し・箇条書き・キーワードといった短い文字情報によって構成される「見せる」視覚資料を表示します。発表者の話と視覚資料によって、聞き手はその論理構成を想像します。聞き手にとって想像した通りの話が展開されれば、それが「伝わる」プレゼンテーションと言えるでしょう。

☞また、「見せる」ことが「伝わる」につながるという点では、デザイン・絵画・映画などの芸術もプレゼンテーションの参考になるのではないのでしょうか。良い表現にであったら、どうしてその表現を良いと感じたのかという点を自分なりに考えておくことで、自分の表現の幅を広げていってください。

◆さらに「プレゼンテーション力」について学びたい人へ：文献案内

福澤一吉（2002）『議論のレッスン』日本放送出版協会

渡部欣忍（2014）『あなたのプレゼン誰も聞いていませんよ！』南江堂

カーマイン・ガロ（2010）『スティーブ・ジョブズ 驚異のプレゼン』日経 BP 社

# SIH道場 ラーニングスキル<プレゼンテーションカ>ルーブリック評価表

評価者 (評価する人) :

制作者 (評価される人) :

<b>課題</b>	<p>(例) 体験学習「大塚国際美術館見学」において学んだことや感じたことを整理し、3分間のプレゼンテーションを行って下さい。また、プレゼンテーションの際に聴衆に対して配布するための資料として、A4用紙1枚に発表内容をまとめて下さい。</p>
-----------	---

尺度			
	(A) 期待通りです	(B) まずまずです	(C) 努力しましょう
<b>①内容の構成</b>	理由（根拠と論拠）と結論（主張）をわかりやすい順番で構成している。	理由と結論の順序については、意図をくみ取ることができているが、改善の余地がある。	理由と結論がわかりやすい順序で構成されていない。
<b>②姿勢</b>	説明する内容を聞き手に理解してもらおうとする姿勢（発声、視線、表情、体の姿勢）がある。	説明する内容を聞き手に理解してもらおうとする姿勢が感じられるが、発声、視線、表情、体の姿勢のうち、十分な点が1,2か所程度ある。	説明する内容を聞き手に理解してもらおう姿勢がなく、淡々と発表をこなしている。
<b>③視覚資料</b>	必要な情報がすべて盛り込まれており、また無駄な情報がなく「見せる」視覚資料になっている。	必要な情報の一部が不足している、または無駄な情報があり「読ませる」視覚資料になっているところがある。	必要な情報が不足している、あるいは無駄な情報があり「読ませる」視覚資料になっている。

### 3-3. 「協働力」を身につけよう



スマートフォン  
での閲覧はこちら

#### ◆学習目標

- ① 協働して課題に取り組むにあたって、「ゴールの共有」、「時間の管理」、「役割の自覚」の3つのルールが重要であることを説明できる。
- ② 協働における話し方・聴き方のコツを説明できる。
- ③ アイディアの発想・共有と収束・統合のコツを説明できる。

#### 1. 概要

「協働」とは、コミュニケーションを通じて、複数人で課題に取り組むことを指します。

様々な立場の人との「協働」は、どのような職場においてもいろいろな形で必要となります。例えば、企業ではたった1人で様々なことを決めてしまうのではなく、上司や部下、同僚と「報告・連絡・相談」(ホウ・レン・ソウ)を絶やさないようにすることが求められます。また、理系の研究室では、共同研究というスタイルで研究が行われます。このとき、研究室内の「協働」が、研究遂行のために非常に重要です。学校の教員になる場合、他の教員との「協働」が必要ですが、それだけでなく、最近は学校外の人材を招いて行う出張授業の取組が盛んになっており、学校外の専門家との「協働」も必要となってきています。さらには、医療の分野では、近年「チーム医療」の重要性が叫ばれています。医師や薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士などの多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、協働して医療を提供することが求められているのです。

SIH 道場においては、みなさんが課題を発見し、解決できる能力を身につけられるよう、協働力が必要とされる課題に取り組む機会が設けられています。SIH 道場で学ぶラーニングスキル「協働力」は、皆さんの将来の活躍と、徳島大学での学修との両方の基礎になるものです。

SIH 道場では、協働力を3つの観点に分けて整理することで、みなさんがこの力を身につけやすいよう工夫しています。その3つとは、「協働のためのルールを守ること」「話すスキルと聞くスキルを身につけること」「アイディアの発想と収束を行えるようになること」です。これらをマスターできれば、大学で「協働力」を修得するための第一歩を踏み出せたと言えるでしょう。

\* 「協働力」には、WEB で観られるビデオ教材があります。視聴方法については、ビデオ教材を使った事前学習」(8 ページ) を参照してください。



## 2. 「協働力」の3つの観点と尺度

「協働力」には、「①協働のためのルール」「②話す・聞く」「③アイデアの発想と収束」の3つの観点があります。以下では、これら3つの観点と、それぞれの「尺度」について、「<協働力>ループリック」(37ページ)に基づいて説明します。

### (1) 「①協働のためのルール」

協働を成功させるコツは、「ゴールを共有せよ」「時間の管理を徹底せよ」「自分の役割を自覚せよ」の3つの「ルール」を意識して守ることです。これらに注意することで、協働して課題に取り組みやすくなるはずですよ。

#### ▶ 「(A) 期待通りです」の例：

- ◇ 話し合いを始める前に、「これから何のために話し合うのか」を全員で確認した。
    - ☞ 「ゴールを共有せよ」を守っています。
  - ◇ 全体でどれだけの時間が与えられているかを確認し、現在の作業にどれだけの時間をかけられるか逆算して課題に取り組んだ。
    - ☞ 「時間の管理を徹底せよ」を守っています。
  - ◇ 誰かが話しているときには自分の作業をやめて、その人の意見をきちんと聞いた。
    - ☞ 「自分の役割を自覚せよ」を守っています。
- ※これらすべてができていた場合、「(A) 期待通りです」と評価しましょう。

#### ▶ 「(C) 努力しましょう」の例：

- ◇ 何をすればよいのかわからなくなり、雑談をしてしまった。
    - ☞ 何をすればよいのかわからないということは、「ゴールを共有せよ」が守れていないということです。グループ内でゴールを確認し合い、それでもわからない時は先生に相談しましょう。
  - ◇ 話し合いに時間をかけすぎて、うまく意見をまとめることができず、納得の行く発表ができなかった。
    - ☞ 「時間の管理を徹底せよ」が守れていません。話し合いに使える時間を予め計算しておきましょう。
  - ◇ 「順番に発言しよう」と決めた結果、みんな自分の意見を考えるのに必死になり、他の人の発言を誰も聞かなくなった。
    - ☞ 「自分の役割を自覚せよ」が守れていません。他の人の発言を聞くことも、重要な役割です。
- ※こうした失敗が全て重なった場合、「(C) 努力しましょう」と評価しましょう。

## (2) 「②話す・聞く」

協働のために欠かせないのがコミュニケーションです。コミュニケーションは、「話す」と「聞く」こととで成立します。それぞれのスキルを習得しましょう。

### ▶ 「(A) 期待通りです」の例：

- ◇ 「私は〇〇だと思います。その理由は・・・」という話し方をした。
    - ☞ はじめに結論を述べ、次に理由を述べるのが、上手に話すコツです。
  - ◇ 学園祭の模擬店についての話し合いで、「あったかいのがいいね」という発言に対して、「温かい食べ物売りたいってこと？」と、内容を確認した。
    - ☞ 話し手の発言が曖昧だったとき、具体的にどういうことか確認することは、聞き手の重要なスキルです。
- ※両方ができていた場合、「(A) 期待通りです」と評価しましょう。

### ▶ 「(C) 努力しましょう」の例：

- ◇ 思いついた順に話していたら、途中で自分でも何を言いたいのかわからなくなった。
    - ☞ 考えを整理して、「結論→理由」の順番で話しましょう。考えが整理され、相手にも伝わりやすくなります。
  - ◇ 学園祭の模擬店についての話し合いで、「あったかいのがいいね」という発言に対して、「そうだね」と返事をした。
    - ☞ 「あったかいのがいいね」という発言は曖昧です。「温かい食べ物がいい」という意味かも知れませんし、「当日の天気予報を確認したらよい天気だった」ということが言いたいのかもしれません。曖昧な発言の内容を確認しないままに議論を進めてしまうと、途中で誤解が発覚して取り返しのつかないことになりかねません。
- ※両方がうまくいかなかった場合、「(C) 努力しましょう」と評価しましょう。

## (3) 「③アイディアの発想と収束」

協働のメリットとして、1人で考えるよりもたくさんのアイディアを発想できることと、1人では気づかなかったアイディア同士の関係や問題点に気づき、アイディアを収束させられることが挙げられます。これらを「ステップ」として捉えることで、協働が行いやすくなります。

このような協働を助ける方法として、「KJ法」があります。KJ法では、アイディアを付箋に書き出すことで発想を行い、次に付箋に書きだしたアイディア同士の間を考えると、アイディアの収束を行います。



▶ 「(A) 期待通りです」の例：

- ◇ アイディアの発想の段階で、思いついたことを恥ずかしがらずに皆と共有するようにした。
    - ☞ アイディアの発想の段階では、「これはちょっとよくないかな？」といったためらいは無用です。もし難のあるように思えるアイディアでも、それがきっかけでもっとよいアイディアが生まれるかもしれません。また、KJ法を用いる場合は、付箋にどんどんアイディアを書いていくことが大切です。
  - ◇ アイディアの収束の段階で、気づいた問題点を積極的に発言するようにした。
    - ☞ アイディアの収束の段階では、たくさん出したアイディアを絞り込むことが大切です。発想の段階とは逆に、細かな問題点にも注意を払います。
- ※発想と収束の両方がうまくいった場合に、「(A) 期待通りです」と評価しましょう。

▶ 「(C) 努力しましょう」の例：

- ◇ アイディアの発想の段階で、難のあるように思った意見を徹底的に批判した。
    - ☞ アイディアの発想の段階では、批判をするのはルール違反です。もっとよいアイディアの「種」を潰してしまうことになりかねません。
  - ◇ アイディアの収束の段階で、はじめに、自分がもともと知っていた知識を元に、様々なアイディアを2つに分類した。
    - ☞ すでに持っている知識をもとに分類してしまっただけでは、独創的な解決策は出てきません。先入観を持たず、出てきたアイディア同士の関係をひとつひとつ考えていくことが大切です。
- ※アイディアの発想と収束の両方がうまくいかなかった場合、「(C) 努力しましょう」と評価しましょう。

◆さらに「協働力」について学びたい人へ：文献案内

中原淳・長岡健（2009）『ダイアログ—対話する組織』ダイヤモンド社  
堀公俊・加藤彰（2009）『ロジカル・ディスカッション』日本経済新聞出版社  
川喜田二郎（1970）『続・発想法—KJ法の展開と応用』中央公論新社  
平田オリザ（2012）『わかりあえないことから—コミュニケーション能力とは何か』講談社  
厚生労働省（2010）「チーム医療の推進について（チーム医療の推進に関する検討会報告書）」、  
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/s0319-9.pdf>（アクセス：2017年2月24日）  
安永悟・須藤文（2014）『LTD話し合い学習法』ナカニシヤ出版

# SIH道場 ラーニングスキル<協働力>ルーブリック評価表

評価者：

被評価者：

<b>課題</b>	チーム医療の重要性について、シナリオをもとにグループで考え、見解をまとめて下さい。
-----------	---

尺度			
	(A) 期待通りです	(B) まずまずです	(C) 努力しましょう
①基本的なルール	「ゴールの共有」、「時間の管理」、「役割の自覚」のすべてを守っている。	「ゴールの共有」、「時間の管理」、「役割の自覚」のうち、1個または2個を守っている。	「ゴールの共有」、「時間の管理」、「役割の自覚」のすべてが守られていない。
②話す・聞く	常に要点を明確にして話し、確認・要約をしながら聞いている。	要点を明確にして話し、確認・要約をしながら聞いている場面がある。	要点を明確にして話すことと、確認・要約をしながら聞くことを全していない。
③アイデアの発想と収束	アイデアの発想・共有と、収束・統合の二段階を明確に分けて課題に取り組んでいる。	アイデアの発想・共有と、収束・統合の二段階に分けて課題に取り組んでいるが、区別が曖昧になっている。	アイデアの発想・共有と、収束・統合の二段階を全く意識していない。



## 4. 学修を振り返る習慣を身につけよう



スマートフォン  
での閲覧はこちら

SIH 道場で、みなさんは学修経験の振り返り(内省、リフレクション)を行うことで、主体的に学修計画を立て、実施することができる習慣を身につけていきます。

本節では、学修の振り返りの基本ステップを説明するとともに、授業ごとの振り返り、SIH 道場終了時の振り返りの流れを示します。

本節では、「学修の振り返り」のポイントを説明していきます。

## 学修を振り返る習慣を身につけよう

### ◆学修目標

- ① 学修の振り返りのステップを説明できる。
- ② 学修の振り返りを随時自分で行うことができる。

### 1. 学修を「振り返る」

SIH 道場では、みなさんが専門分野の早期体験を通してラーニングスキルを身につけるだけでなく、大学での学修について「振り返り（内省、リフレクション）」を行うための習慣を身につけることも期待しています。「振り返り」とは、過去に行ったことをぼんやりと脈絡なく思い出すことではなく、学んだ内容を整理し自分なりの意義づけをし、自己の成長と改善点を見出し、次のよりよい学修につなげるための礎となる能動的な活動のことです。自分自身の思考を振り返ることは、「メタ認知」と呼ばれています。優れた学習者は、「メタ認知」や「動機づけ」「行動」に関する戦略を統合的に用いることができ、自己の学修効果に関するフィードバックに反応し、自分が到達した内容について自覚的である、というところに特徴があると言われています。

自己の学びについて「振り返り」を行い、改善点等を見出し、行動にフィードバックする（自己調整する）習慣を身につけた人は、自律的な学習者として生涯学び続けることができます。例えば、職業人として必要となる知識や技術が新たに増えても、臆することなく試行錯誤で学び、振り返りをしながら改善点を見出し、やがて身につけることができるでしょう。

SIH 道場の授業内容は各学部学科コースなどで異なりますが、各授業回の最後や SIH 道場の終了時等には、「振り返り」の機会が設定されています。SIH 道場での「振り返り」の機会を通して、自己の成長につながる「振り返り」の仕方をぜひ身につけましょう。

振り返りには、「①学んだ内容」「②学んだプロセス」「③学びの意義」「④学びの活用」の4つの観点があります。43 ページの学修の振り返りルーブリック評価表で、「(A) 期待通りです」「(B) ますますです」「(C) 努力しましょう」のそれぞれの尺度に該当する内容をあらかじめ確認しておきましょう。

振り返りの際は、次の5つのステップを意識するとよいでしょう。

#### 振り返りのための5つのステップ

- ① 学修目標（授業で提示されたもの・自分なりのもの）を設定する  
☞ 学修目標を意識することで、目標に向けた能動的思考・活動が促されます

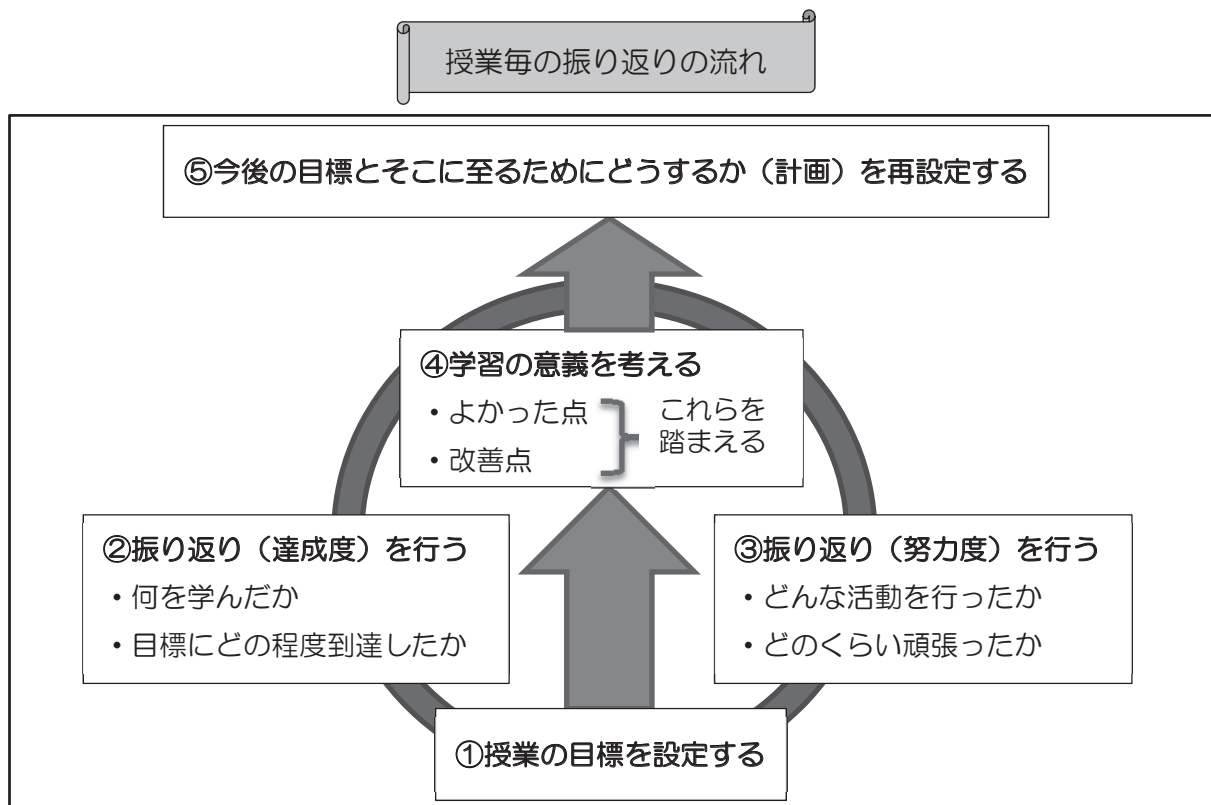
- ② 自分が学んだ内容、理解した内容を振り返る（記述する）
  - ☞ 学んだ内容を明確化することで、自己の理解度を判断できます
- ③ 学びのプロセス（体験学習、課題の作成など）で、自分がどのような方法をとったのか、順序立てて振り返る（記述する）
  - ☞ 学びのプロセスを明確化することで、今後の改善につなげることができます
- ④ 自分が学習し理解した内容の意義（自分にとってどのような意味があるか、なぜ重要だと思うのか、どのように感じたのか）を具体的に振り返る（記述する）
  - ☞ 学びの意義を明確化することで、より深い気づき（意欲）が得られます
- ⑤ 自分が学んだプロセスや学んだ内容の意義を踏まえて、今後の学習をどのように進めていくことができるか、具体的に振り返る（記述する）
  - ☞ 最初の目標に照らし到達度を確認することで、具体的な改善策を立てられます

## 2. 授業ごとの振り返り

振り返りを習慣づけられるようになると、改善へのサイクルが自然と回りだします。まずは、SIH 道場の各授業で振り返りを丁寧に行うことで、よりよい学修へとつながる振り返りの方法を身につけていきましょう。以下は、各授業回の後で行う振り返り方法の一例です。

振り返った内容は、「リフレクションシート：サンプルA（授業毎のリフレクション）」（44 ページ）等を書き出してみるとよいでしょう。

\*リフレクションシートの使用については、授業担当の先生の指示にしたがってください。





### 3. SIH 道場終了後の振り返り

SIH 道場の授業を通して、専門分野での学修や大学での学びの方向性について見えてきたでしょうか。「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」などのラーニングスキルはどの程度身についたでしょうか。専門分野の早期体験で得られたことやラーニングスキルの修得度など、SIH 道場の体験を通して得られたこと（または得られなかったこと）について自己評価して自分の現状を把握し、学修計画を再設定することで次の学修につなげていきましょう。

- ❖ 全体的な振り返り際には、授業で行ったワークや提出課題などの学修成果物を参照しながら行いましょう。例えば、早期体験の際に作成したレポート等が材料になります。
- ❖ 3つのラーニングスキル（「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」）については、それぞれのルーブリックに基づいて、自己評価してみましょう。各ルーブリックの「観点」で、自分が「(A) 期待通りです」「(B) まずますです」「(C) 努力しましょう」のどれに位置づくのか考え、その理由を書き出してみましょう。
- ❖ 「総合リフレクション」として、SIH 道場で得られた収穫やこれから新たに学びたいことを書き出しましょう。  
\*もし、収穫が全く得られなかった場合は、どうして収穫が得られなかったか、どうすれば収穫が得られそうか、書きましょう。

振り返った内容は、「リフレクションシート：サンプル B（SIH 道場の全プログラム終了後リフレクション）」（45 ページ）等を書き出してみるとよいでしょう。

- ❖ 「学修計画シート：サンプル C」（SIH 道場のリフレクション後に実施）」（46 ページ）を使って、当面（半年間～1 年間）の学修目標と学修計画を立てて、次の学びにつなげていきましょう。  
\*リフレクションシートの使用については、授業担当の先生の指示にしてください。

#### ◆さらに「振り返り」について学びたい人へ：文献案内

松尾睦（2011）『「経験学習」入門』ダイヤモンド社

中原淳、金井壽宏（2009）『リフレクティブ・マネージャー：一流はつねに内省する』光文社

エドガー H.シャイン著・金井壽宏訳（2003）『キャリア・アンカー—自分のほんとうの価値を発見しよう—』白桃書房

多鹿秀継編著（2008）『学習心理学の最先端—学びのしくみを科学する』あいり出版

# SIH道場 学修の振り返りルーブリック評価表

評価者（評価する人）： 制作者（評価される人）：

<b>課題</b>	学んだ内容の振り返りを行う際に、振り返った内容をルーブリックで自己評価していきましょう。
-----------	--

		<b>尺度</b>		
		(A) 期待通りです	(B) まずまずです	(C) 努力しましょう
<b>観 点</b>	① 学んだ内容	自分が学んだ内容、理解した内容を実感に即して具体的に記述できた。	学習した内容、理解した内容を記述できた。	学習した内容、理解した内容を記述できなかった。
	② 学んだプロセス	学びのプロセス（体験学習、課題の作成など）で、自分がどのような方法をとったのかについて順序立てて記述できた。	学びのプロセス（体験学習、課題の作成など）で、自分がどのような方法をとったのかについて断片的に記述できた。	学びのプロセス（体験学習、課題の作成など）で、自分がどのような方法をとったのかについて記述できなかった。
	③ 学びの意義	自分が学習し理解した内容の意義（自分にとってどのような意味があるか、なぜ重要だと思おうのか、どのように感じたのか）について具体的に記述できた。	自分が学習し理解した内容の意義（自分にとってどのような意味があるか、なぜ重要だと思おうのか、どのように感じたのか）について記述できた。	自分が学習し理解した内容の意義（自分にとってどのような意味があるか、なぜ重要だと思おうのか、どのように感じたのか）について記述できなかった。
	④ 学びの活用	自分が学んだプロセスや学んだ内容の意義を踏まえて、今後の学習をどのように進めていくことができるかについて具体的に記述できた。	自分が学んだプロセスや学んだ内容の意義を踏まえて、今後の学習をどのように進めていくことができるかについて記述できた。	自分が学んだプロセスや学んだ内容の意義を踏まえて、今後の学習をどのように進めていくことができるかについて記述できなかった。

名前：\_\_\_\_\_

日付：\_\_\_\_\_

●本日の目標

<授業で提示された目標>

<自分なりの目標>

●本日の振り返り

<本日の努力度（どんな活動を行ったか、どのぐらい頑張ったか）>

<本日の達成度（何を学んだか、当初の目標と比較してどのぐらい出来たか）>

<よかった点、改善点、今後の目標など>

●教員コメント欄（学生は記入しないでください）

リフレクションシート：サンプル A（授業毎のリフレクション）

名前： \_\_\_\_\_

日付： \_\_\_\_\_

●早期体験 ※提出済みのレポートの要約を書くこと。

<早期体験で得られたこと>

●ラーニングスキル ※それぞれルーブリックを元に自己評価し、その理由を書くこと。

<文章力の自己評価>

<プレゼンテーション力の自己評価>

<協働力の自己評価>

●総合リフレクション

<SIH 道場での収穫、これから学びたいこと> ※収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうか  
を書くこと。

●教員コメント欄 (学生は記入しないでください)

リフレクションシート：サンプル B (SIH 道場の全プログラム終了後リフレクション)

名前： \_\_\_\_\_

日付： \_\_\_\_\_

※当面（半年間～1年間）の学修目標と学修計画を立ててみましょう。

●文章力

<学修目標> ※ルーブリック評価表の自己評価で「結構です」を達成している場合、もっと上位の目標を自分なりに設定すること。

<学修計画（いつ、どうやって学ぶか）>

●プレゼンテーション力

<学修目標> ※ルーブリック評価表の自己評価で「結構です」を達成している場合、もっと上位の目標を自分なりに設定すること。

<学修計画（いつ、どうやって学ぶか）>

●協働力

<学修目標> ※ルーブリック評価表の自己評価で「結構です」を達成している場合、もっと上位の目標を自分なりに設定すること。

<学修計画（いつ、どうやって学ぶか）>

●その他 ※いくつでも設定してください。

<学修目標>

<学修計画（いつ、どうやって学ぶか）>

●教員コメント欄（学生は記入しないでください）

学修計画シート：サンプル C（SIH 道場のリフレクション後に実施）

## おわりに：今後の学修に向けて

徳島大学高等教育研究センター教育改革推進部門 部門長 吉田 博

SIH 道場を終えて、大学での「学修」について何か見えてくるものはありましたか？これから徳島大学生として学修し、未知なる世界を「探求」していく学生生活が始まります。SIH 道場の授業で学んだことや体験したことは、みなさんの心に一打の刺激を与えたかもしれませんが、大学での学修を行うためのほんの第一歩にすぎません。みなさんは、まだまだ固まっていない熱い思いを持っています。SIH 道場の教育プログラムは修了しても、この精神は忘れずに、その熱い思いに対してさらなる刺激を与えて、鍛えてほしいと思います。

SIH 道場では大学での学修の基礎を学び、そして大学生としての「学修」をスタートさせました。ここからは、この動きを止めないように自ら実践していくことが最も重要になります。この SIH 道場の中には大学での「学修」における重要なエッセンスが入っていました。SIH 道場を通して行った①専門分野の体験、②ラーニングスキルの習得、③学修の振り返りは、SIH 道場だけで学び終え、完成するものではありません。継続して、繰り返し実践していくことが一番大切です。その実践によって、みなさんが大学卒業後においても生涯にわたって社会で活躍していくための基盤となる力を育てていくことに繋がっていきます。

SIH 道場で学んできたことを実践する場は、これから始まる日々の大学生活の中にたくさんあふれています。例えば、教養教育科目や学部の専門科目の授業の中で SIH 道場において、学んだ知識やスキルを実践する場面はいくつもあります。①大学での学修は、制限なくどこまでも広がっていて、とても楽しく感じるがあります。一方で、辛く厳しい時や思うように取り組めない時もあります。そんな時は、身近にいる先生に尋ねてみましょう。これはもっとも簡単にできる（間接的な）専門分野の早期体験になります。専門分野の研究や最先端の情報、今の学修のもう少し先を見据えることで自分自身の動機づけを自分で行っていきましょう。②大学の授業では、文章を書く機会やプレゼンテーションを行う機会、グループワークを行う機会が山のようにあります。これらすべてが、生涯にわたって社会生活を行う上での基盤になり、身につけたスキルはさまざまな場面でみなさんを支えてくれます。そして、③学修経験を振り返り、そこから「教訓」を引き出し、次の学修（行動）に繋げましょう。できる大人は、「経験から学ぶ力」が優れていると言われています。学修を振り返る習慣を身につけ、自分で次の学修を設計できるようになれば、みなさんの成長はどんどん加速していくことでしょう。

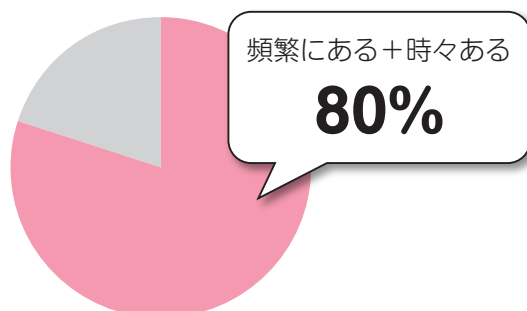
さあ、みなさんの徳島大学での「学修」が始まります。



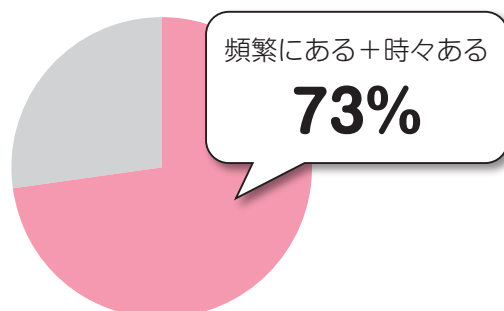
皆さんが入学した徳島大学では、どのような学びを経験することになるのでしょうか。ここでは、皆さんの先輩にあたる2018年度3年次の徳島大学学生を対象に行ったアンケート調査の結果\*をもとに、徳島大学での学びを覗いてみましょう。

## Q 大学ではどんな授業を経験しましたか？

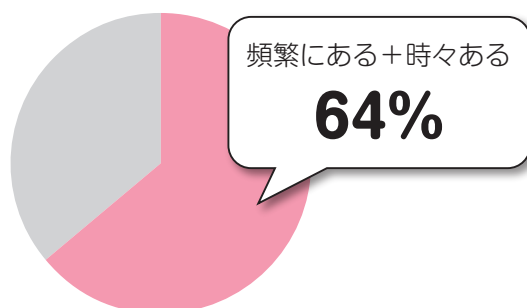
✿ 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



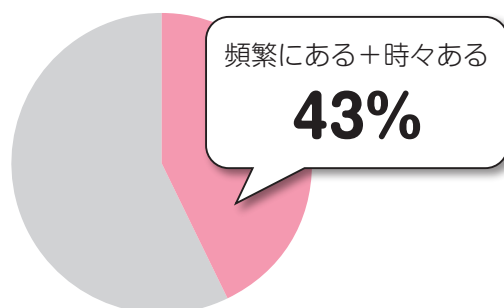
✿ 学生が自分の考えや研究を発表する



✿ 授業中に学生同士が議論をする



✿ 教員に親近感を感じた

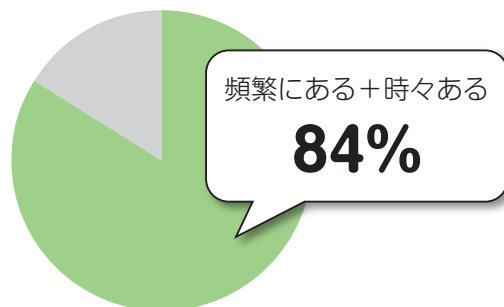


## Q 成績評価はどういったものがありますか？

✿ 定期的に小テストやレポートが課される

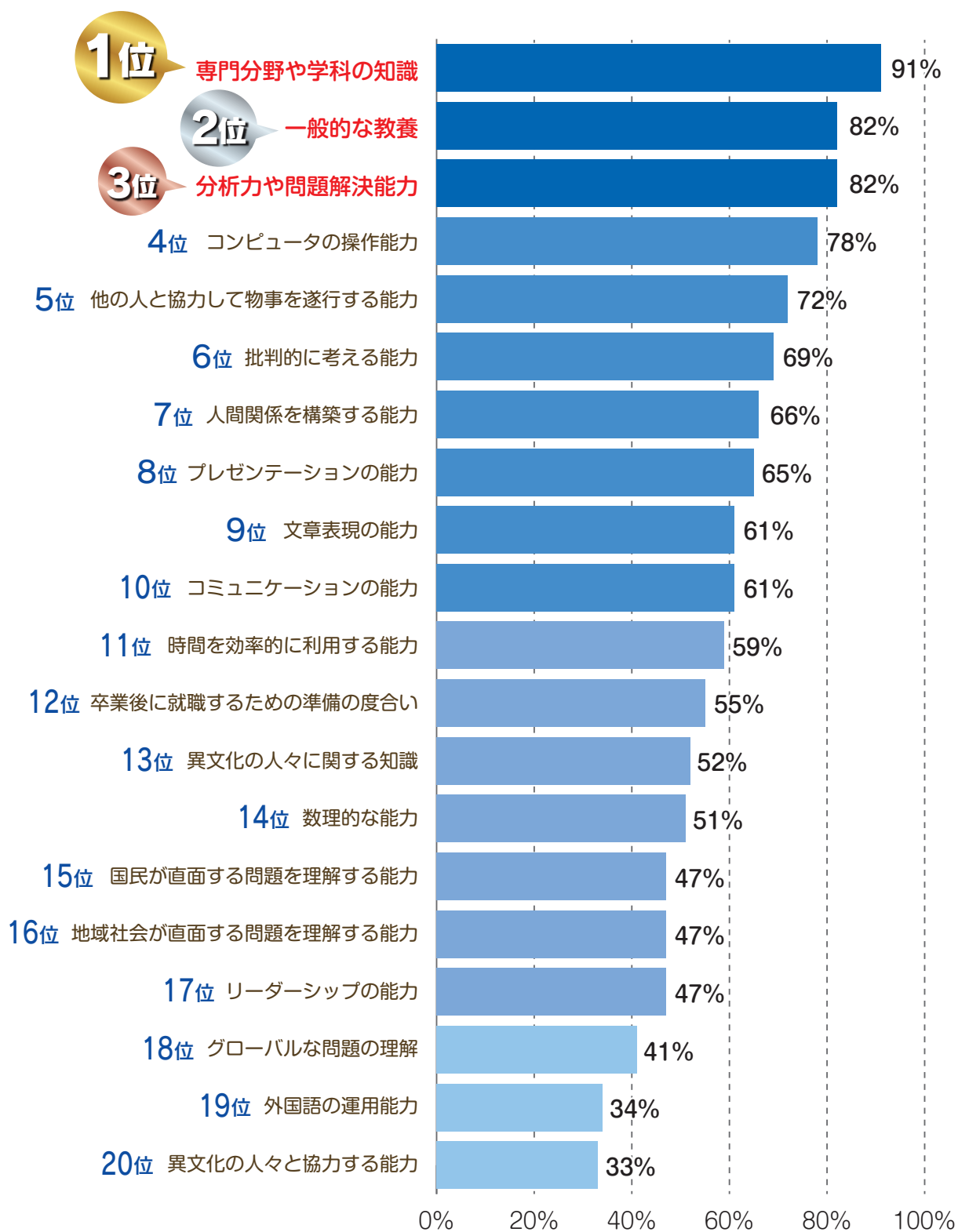


✿ 出席することが重視される



\*数値は「2018年度学習に関する実態調査結果報告書」に基づきます。

## 徳島大学生生活3年目の先輩たちが 身に付けたスキルランキング2018



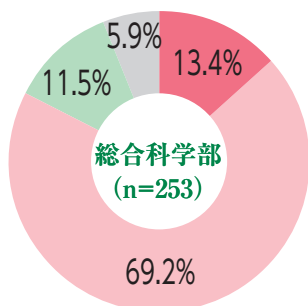
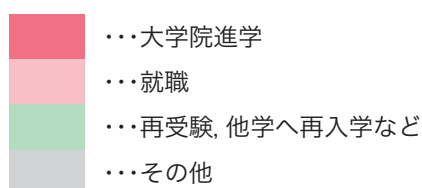
※数値は『2018年度学習に関する実態調査結果報告書』に基づきます。

# 徳島大学卒業生の就職・進路状況

## 学部

平成31年4月現在、徳島大学には総合科学部、医学部、歯学部、薬学部、理工学部、生物資源産業学部の6学部<sup>注)</sup>があり、毎年、1学年1,300人前後の学生が入学します。また、その4年後または6年後には就職や大学院進学を決め、新しいステージに進んでいきます。ここでは、平成29年度卒業生のデータに基づく先輩たちの就職・進路状況について見てみましょう。

注) 平成29年度卒業生の所属は総合科学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部の5学部から成ります。

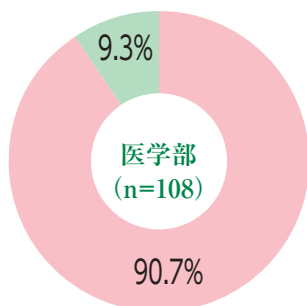


### 就職先

徳島地方検察庁, 地方公務員, 公立学校教員, 阿波銀行, 四国財務局, 三井住友海上火災保険, 大阪入国管理局, 日本化薬, 日本通運, 三菱電機マイコン機器ソフトウェア, 山崎製パンほか

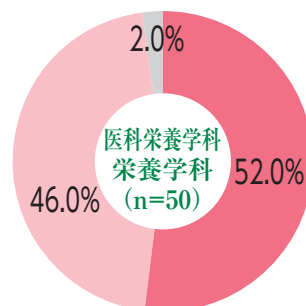
### 進学先

徳島大学大学院, 大阪大学大学院, 九州大学大学院, 早稲田大学大学院ほか



### 研修受け入れ先

徳島大学病院, 徳島県鳴門病院, 徳島県立中央病院, 帯広厚生病院, 神戸市立医療センター中央市民病院, 熊本大学病院, 京都府立医科大学附属病院, 大阪警察病院, 金沢医療センター, 大分岡病院ほか

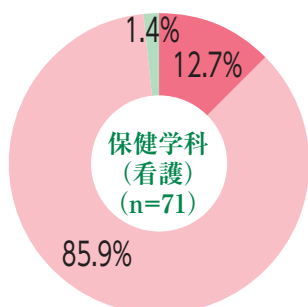


### 就職先

神戸検疫所, 大分県学校栄養職員, スーパージャム, マツモトキヨシホールディングス, 大塚製薬工場, 徳島銀行, 宮崎大学医学部附属病院, エム・シーシー食品, 日亜化学工業ほか

### 進学先

徳島大学大学院, 神戸大学大学院, 奈良先端科学技術大学院大学

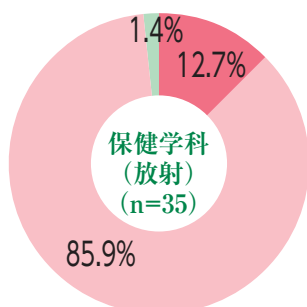


### 就職先

徳島大学病院, 徳島県看護教諭, 徳島県保健師, 大阪大学医学部附属病院, 徳島赤十字病院, 愛媛大学医学部附属病院, 兵庫県立こども病院, 善通寺市役所, 神戸市民病院機構, 神戸市教育委員会(看護教諭)ほか

### 進学先

徳島大学大学院, 大阪大学大学院

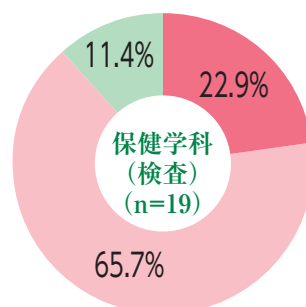


### 就職先

徳島県, 国立病院機構中国四国グループ, 倉敷中央病院, 済生会広島病院, 宮崎県職員, 鹿児島大学病院, 八尾徳州会総合病院, 製鉄記念八幡病院, 香川労災病院, 松山市民病院ほか

### 進学先

徳島大学大学院, 大阪大学大学院, 広島大学大学院, 金沢大学大学院

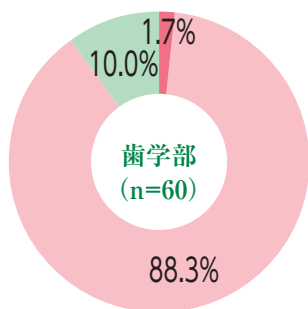


### 就職先

徳島大学病院, 愛知県, 川島病院, 徳島赤十字病院, JA 徳島吉野川医療センター, 神戸大学医学部附属病院, 阪和住吉総合病院, 大阪警察病院, 鳥取大学医学部附属病院, 医誠会病院ほか

### 進学先

徳島大学大学院

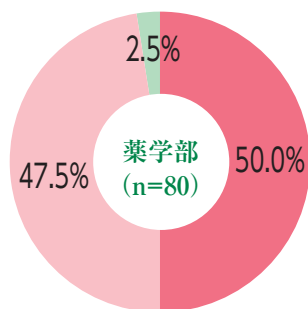


**就職先**

徳島大学病院, 香川県, 紀の川市, 倉敷中央病院, 高松市民病院, 神戸大学医学部附属病院, 筑波大学附属病院, 岡山大学病院, 三豊総合病院, 昭和大学附属病院, 三好市社会福祉協議会, 健生歯科ほか

**進学先**

徳島大学大学院

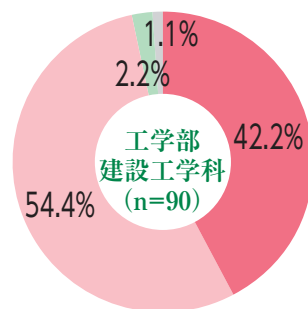


**就職先**

徳島県, 広島県, 小野薬品工業, クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン, クレハ, 日本新薬, 日本調剤, 日本ペーリンガーインゲルハイム, 阪大微生物病研究会, ヤクルト本社ほか

**進学先**

徳島大学大学院, 京都大学大学院

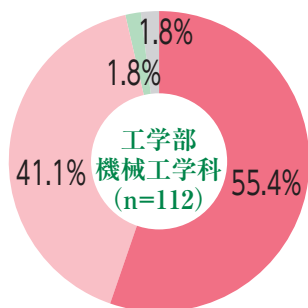


**就職先**

大林組, 鹿島, 大成建設, 四国地方整備局, 地方公務員 (岡山県, 京都府, 福岡県, 徳島県ほか), 住友林業ホームテック, 積水ハイム中四国, 五洋建設ほか

**進学先**

徳島大学大学院, 大阪大学大学院, 九州大学大学院, 早稲田大学大学院ほか

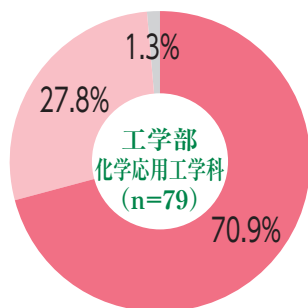


**就職先**

四国化工機, 四国電力, 大塚製薬, シャープ, ソフトバンク, タダノ, エムイーシーテクノ, 四電エンジニアリング, ダイキンエアテクノ, 神戸市, 西宮市, 四国経済産業局ほか

**進学先**

徳島大学大学院, 鳴門教育大学大学院

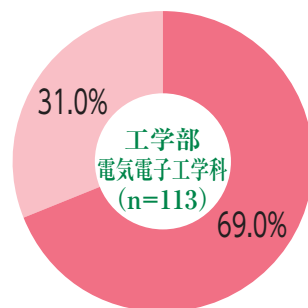


**就職先**

阿波製紙, エア・ウォーター, 大塚包装工業, TOTO, 港産業, 電脳交通, 技研製作所, 日亜化学工業, ネオケミカル, 三浦工業, 紀陽銀行, 徳島県, 吉野川市ほか

**進学先**

徳島大学大学院, 神戸大学大学院, 奈良先端科学技術大学院大学, 鳴門教育大学大学院

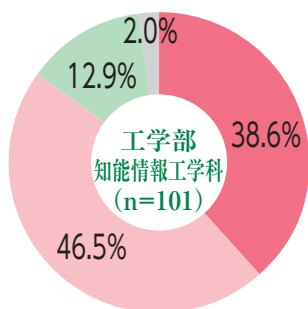


**就職先**

関西電力, 四電工, 中国電力, ニチコン, 日本電産, 日本無線, 西日本高速道路エンジニアリング四国, エムイーシーテクノ, 日亜化学工業, 日立工機, 高松市, 神戸市ほか

**進学先**

徳島大学大学院, 大阪大学大学院, 九州大学大学院, 北陸先端科学技術大学院大学

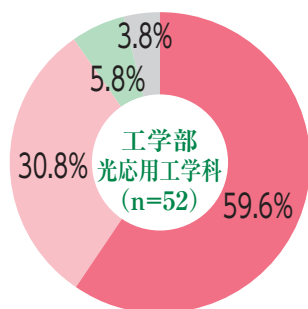


**就職先**

花王, シャープ, デンソーテン, トヨタ自動車, パナソニックインフォメーションシステムズ, 四国化工機, NTTコミュニケーションズ, NTTファシリティーズ関西, 三菱自動車エンジニアリング, 日亜化学工業, 多度津町ほか

**進学先**

徳島大学大学院

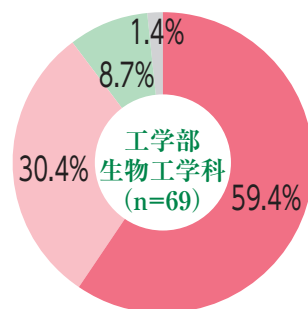


**就職先**

計測技研, サトーホールディングス, スタンレー電気, 東洋電機, 北陽電機, 紀陽情報システム, ホシデン, テクノモバイル, LIXIL, 四国運輸局, 四国銀行ほか

**進学先**

徳島大学大学院



**就職先**

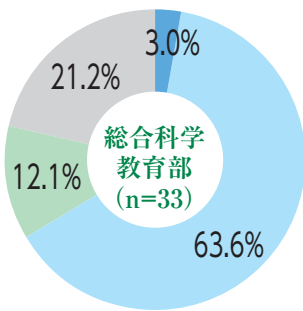
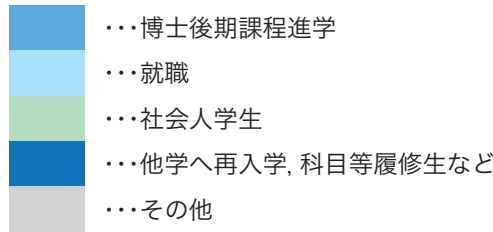
サンスター, JCRファーマ, 大鵬薬品工業, 大和証券, 長生堂製薬, 野村證券, ハレルヤ, 四国システム開発, ゆうちよ銀行, 徳島県医師会, 名糖産業ほか

**進学先**

徳島大学大学院, 大阪大学大学院, 京都大学大学院, 奈良先端科学技術大学院大学

## 大学院（博士前期課程）

徳島大学は大学院大学であり、7 教育部（総合科学教育部、医科学教育部、口腔科学教育部、薬科学教育部、栄養生命科学教育部、保健科学教育部、先端技術科学教育部）と2 研究部（社会産業理工学研究部、医歯薬学研究部）で構成されています。学部学科によっては約半数もの学生が徳島大学大学院への進学（いわゆる内部進学）を選択しており、「大学院進学」は皆さんの将来の選択肢の一つとなっています。大学院に進学することによって見えてくる就職先・進路もあることを知り、検討してみましょう。

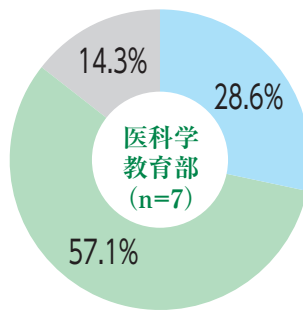


### 就職先

兵庫県公立学校教員, NTTデータ関西, 環境防災, 昭和鉄工, 大塚倉庫, こどもの発達研究室きりん, 徳島県警察(心理職), 徳島市教育研究所ほか

### 進学先

徳島大学大学院

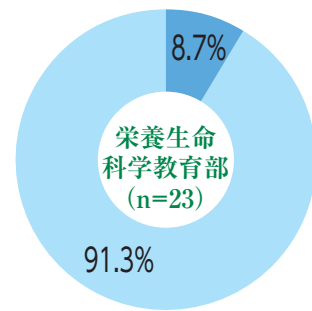


### 就職先

大塚製薬工場, 福井県立中央病院

### 進学先

徳島大学大学院

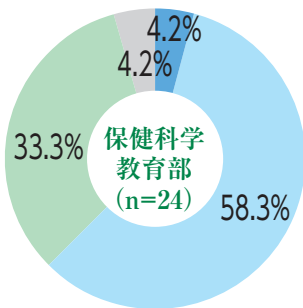


### 就職先

愛媛大学医学部附属病院, 大塚製薬, 神戸大学医学部附属病院, 日本食研, 兵庫県, ヤクルト本社ほか

### 進学先

徳島大学大学院

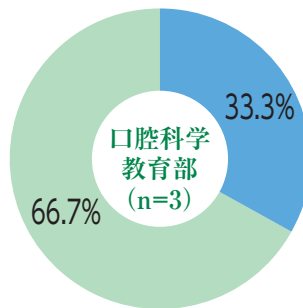


### 就職先

徳島大学病院, 大阪大学医学部附属病院, 東京大学医学部附属病院, 日赤長崎原爆病院, 徳島県立阿南支援学校(養護教諭)ほか

### 進学先

徳島大学大学院

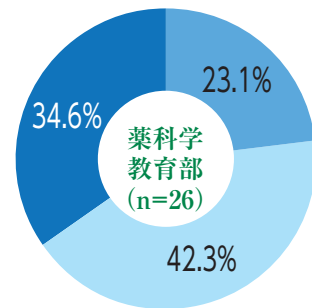


### 就職先

就職者なし【博士後期課程院生の就職先】  
徳島大学(助教), 国立長寿医療センター, 徳島大学病院ほか

### 進学先

徳島大学大学院

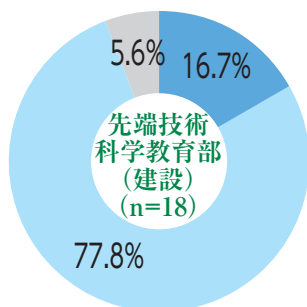


### 就職先

第一三共, 大鵬薬品工業, 東レ, 日本化薬, 日本新薬, 生化学工業, バイエル薬品, 北海道立病院局, マルホほか

### 進学先

徳島大学大学院

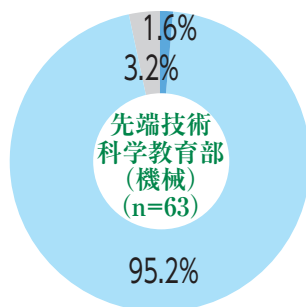


**就職先**

五洋建設, 清水建設, JFEエンジニアリング, JR西日本, NEXCO西日本, 近畿地方整備局, 地方公務員 (岡山県, 神戸市ほか) ほか

**進学先**

徳島大学大学院, 京都大学大学院

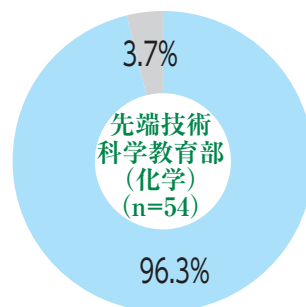


**就職先**

NOK, NTN, 大塚製薬, オリンパス, 川崎重工業, クボタ, クラレ, コマツ, 新明和工業, 大韓航空, トヨタ自動車, 日産自動車, 浜松ホトニクス, 日立建機, 日立造船, マツダ, マンダム, 三菱電機, 三菱ケミカル, ヤマハ発動機, YKKほか

**進学先**

北京理工大学大学院

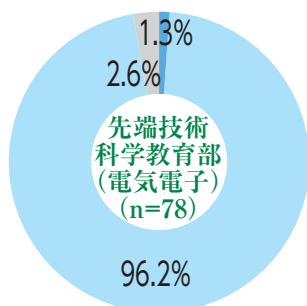


**就職先**

大塚製薬, 大塚製薬工場, 積水化学工業, ディスコ, 東亜合成, 日亜化学工業, 日本化薬, ハウス食品, パナソニック, マイクロンメモリジャパン, 村田製作所, 明治, 森永乳業, ユニ・チャームほか

**進学先**

徳島大学大学院

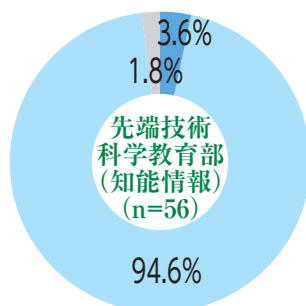


**就職先**

アイシン精機, NTT西日本, 大塚製薬, 川崎重工業, 関西電力, 神戸製鋼所, GSユアサ, 四国電力, 大王製紙, ダイキン工業, デンソー, 日産自動車, 日亜化学工業, ネスレ日本, 日立造船, ファナック, 富士通, パナソニック, 三菱電機, ローム, ローランドほか

**進学先**

徳島大学大学院

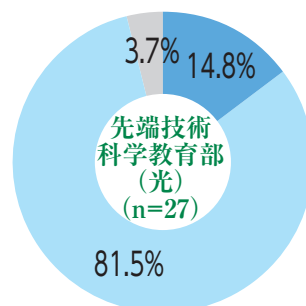


**就職先**

SCSK, NEC, NTTドコモ, NTT西日本, オムロン, カプコン, グローリー, コナミデジタルエンタテインメント, デンソー, パナソニック, 富士通, 富士通エフサス, 三菱電機ほか

**進学先**

徳島大学大学院

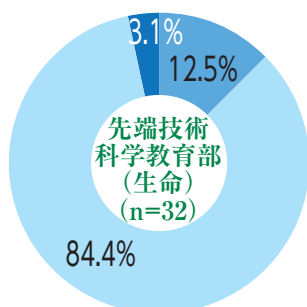


**就職先**

NTTドコモ, オムロン, オリンパス, SUBARU, 日亜化学工業, 旭電器工業, 中部電力, ディスコ, 日新電機, 星和電機, 三菱電機プラントエンジニアリング, STNet, 日立造船, 村田製作所ほか

**進学先**

徳島大学大学院, 大阪大学大学院



**就職先**

アース製薬, 富田製薬, 住友ゴム工業, 塩野義製薬, 長生堂製薬, 白鶴酒造, ノバルティスファーマ, ヤクルト本社, 日本臓器製薬, シオノギテクノアドバンスリサーチ, 住友ゴム工業, 協和化学工業ほか

**進学先**

徳島大学大学院



大学生生活の早い段階から将来の展望について構想を抱くことは、大学での学修目標を達成し、自己実現を叶えるための第一歩です。徳島大学キャリア支援室では、就職・進学といった進路相談を受け付けています。是非足を運んでみましょう。

**徳島大学キャリア支援室**

所在地：教養教育 4号館 1階 (8:30-17:15)  
〒770-8502 徳島市南常三島町 1-1  
電話番号：088-656-7635 (常三島・蔵本共通)  
ファックス番号：088-656-7636  
メールアドレス：gkseisyu@tokushima-u.ac.jp



徳島大学  
キャリア  
支援室HP

**徳島大学キャリア支援室蔵本分室**

所在地：蔵本会館 2階 (13:00-21:00)  
\*スタッフは常駐していません。  
主に求人票閲覧, 図書の貸出(セルフ), 就職相談



## 参照文献

- 大阪大学全学教育推進機構(2014)『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』  
[http://www.celas.osaka-u.ac.jp/ourwork/academic\\_writing/Academic%20Writing%20Introduction.pdf](http://www.celas.osaka-u.ac.jp/ourwork/academic_writing/Academic%20Writing%20Introduction.pdf)(アクセス:2017年2月24日)
- 小原芳明監修・玉川大学編(2006)『大学生活ナビ【第二版】』玉川大学出版会
- 学術技術研究会(2011)『知へのステップ』くろしお出版
- 佐藤浩章編集(2010)『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部
- 三宮真智子編著(2008)『メタ認知—学習力を支える高次認知機能』北大路書房
- エドガー H.シャイン著・金井壽宏訳(2003)『キャリア・アンカー—自分のほんとうの価値を発見しよう—』  
白桃書房
- 多鹿秀継編著(2008)『学習心理学の最先端—学びのしくみを科学する』あいり出版
- 津村俊充(2012)『プロセス・エデュケーション—学びを支援するファシリテーションの理論と実際』  
金子書房
- 東谷護(2007)『大学での学び方—「思考」のレッスン』勁草書房
- 中井俊樹 編著(2015)『アクティブラーニング(シリーズ教授法3)』玉川大学出版部
- 西村まりな・中西良文(2013)「ループリックを用いた協同技能の評価に関する検討」『三重大学教育  
学部紀要 第64巻 教育科学』三重大学教育学部
- 平林純(2009)『論理的にプレゼンする技術』SB クリエイティブ
- 松尾睦(2006)『経験からの学習—プロフェッショナルへの成長プロセス』同文館出版
- 松尾睦(2011)『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 松下佳代編集(2015)『ディープ・アクティブラーニング: 大学授業を深化させるために』勁草書房
- 三重大学高等教育創造開発センター(2013)『三重大学「4つの力」スタートアップセミナー2013年度  
版』ムイスリ出版
- 溝上慎一(2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂
- 和栗百恵(2008)「『ふりかえり』とは?」, 和栗百恵編著, 『体験的な学習とサービスラーニング』  
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター
- 和栗百恵(2010)「『ふりかえり』と学習—大学教育におけるふりかえり支援のために—」『国立教育政策  
研究所紀要 第139集』
- IRA/NCTE (2005) Collaborative Work Skills Rubric  
<http://course1.winona.edu/shatfield/air/grouprubric.pdf>(アクセス:2017年2月24日)
- Stevens, Dannelle D. and Levi, Antonia J.(2013). *Introduction to Rubrics: An Assessment Tool to Save Grading Time, Convey Effective Feedback, and Promote Student Learning*, Second Edition, Stylus Publishing. (=佐藤浩章監訳・井上敏憲・俣野秀典訳(2014)『大学教員のためのループリック評価入門』玉川大学出版部)

# SIH 道場の授業設計について提案してみませんか！？

SIH 道場のプログラムはいかがだったでしょうか。大学での学修を行うための準備をする機会になりましたか。

SIH 道場は、2015 年度から始まった新入生のみなさんに贈る教育プログラムで、大学での学修を始めるための基礎を培うことを目的にしています。授業の設計は、各学科の SIH 道場授業設計コーディネーターの先生が中心となり、私たち高等教育研究センター教育改革推進部門のスタッフや SIH 道場の教材を作成するコンテンツ作成ワーキンググループの先生方がサポートしながら計画されています。

私たちは、何より学生のみなさんにとってためになる教育プログラムを設計したいという思いで授業設計に携わっています。すべての学科で SIH 道場のプログラムが終了すると、全体を振り返り、来年度の授業設計がスタートします。そこで、私たちは受講者である学生のみなさんの意見を改善に反映させて、授業を創っていきたいと考えています。

授業設計というのは、授業の目的、内容、方法、教材、評価の仕方、担当の先生などを検討していくことから始まります。そして、何より実際に学生のみなさんにとって学修効果があったのかどうかということも検討しなければいけません。

徳島大学には「教育について考え提案する学生・教職員専門委員会」が設置されています。ここでは、徳島大学の教育や学生生活について調査や検証を行い、改善策などを提案することができます。SIH 道場について、受講者である学生のみなさんから意見や提案を出してみませんか！？

少しでも興味のある学生さんがいたらぜひご連絡ください。私たちと一緒に SIH 道場について考えてみましょう！！

## ★問い合わせ先★

高等教育研究センター

教育改革推進部門 吉田 博

Mail : hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-9865

**教育について考え提案する  
学生・教職員専門委員会**

徳島大学では、学生のみなさんが充実した大学生活を送ることができるように、**学生・教職員が共に、徳島大学の教育・学生生活に関わる問題点の調査や検証を行い、改善策を提案する「教育について考え提案する学生・教職員専門委員会」**を設置しています。

**★話し合い内容**  
専門委員会において、委員のみなさんから提案された内容を取り扱います。取り扱うテーマの主な例として以下のような学生の関心事があります。  
○教育制度（教育内容、教育方法など）  
○学習・生活環境（自習スペース、PC環境、図書館、フリースペースなど）  
○学習・キャリア支援体制（卒業支援、就職支援など）  
○課外活動支援体制（資格取得、検定、就職など）

**★活動の頻度**  
専門委員会は1年間に2回開催されますが、チームごとに少人数のワーキンググループに分かれて、学生のみなさんの意見がどのように運営に反映しているか調査やミーティングを行います。

「学生のみなさん、授業の改善を提案して、授業の質を上げていきましょう！」  
「チームでの活動を通して、社でも役に立つ人になれるかなって思っています！」  
「自分自身の大学生活を充実させていきたいです！」

**★興味がある学生さんは、ぜひ委員会に参加してみませんか？**

**メンバー随時募集中！**

専門委員会では、次のような学生さんの参加をお待ちしています！！  
○大学や教育について関心がある  
○徳島大学の学部教育や共通教育に関心がある  
○大学での学習・大学生活を充実させたいと考えている  
○今の大学生活が物足りないと感じている

専門委員会事務局 吉田 博  
E-mail : hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp  
Tel : 088-656-9865

事務局員のみなさんにぜひお問い合わせ  
事務局員のみなさん 吉田 博  
E-mail : hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp  
Tel : 088-656-9865

ワーキンググループでのミーティングの様子  
※学生のみなさん専用委員会100円入会費（事務局のサポートが受けられます）

作成： 吉田 博 (高等教育研究センター教育改革推進部門)  
金西 計英 (高等教育研究センター学修支援部門EdTech推進班)  
高橋 暁子 (高等教育研究センター学修支援部門EdTech推進班)  
井戸 慶治 (総合科学部)  
齊藤 隆仁 (教養教育院)  
塩川奈々美 (高等教育研究センター教育の質保証支援室)

## 徳島大学 SIH 道場 ～アクティブ・ラーニング入門～

発行日： 令和2年4月

発行： 徳島大学 高等教育研究センター教育改革推進部門

編集： 吉田 博, 塩川 奈々美

